NEW LOGO (JUN.2018-)
ngc®
NGC corporation
https://www.ngc.co.jp/

映像新聞

平成30年（2018年） 7月16日 第2344号

株式会社 映像新聞社
Weekly THE EIZOSHIMBUN
(VISUAL COMMUNICATIONS JOURNAL)
〒112-0006 東京都文京区小日向1丁目24番8号エイゾービル
電話：(03)3942-2161(代)／ファクス：(03)3942-2581
昭和42年1月25日 第3種郵便物認可 郵便振替：00140-0-65786
1部600円、年間購読料26,000円(税別)

◎映像新聞社
毎週月曜日発行(月4回発行)



三友は、ポストプロダクションスタジオ「MITOMO STUDIO」に千城ビルスタジオを追加し、ノンリニア編集室1室＝写真＝とPD編集室2室、MA室1室の本格稼働を開始した 〈詳細2面〉

ケーブルテレビ連盟／吉崎正弘理事長に聞く

対応STBの目標80万台

新規加入者獲得の好機

新4K8K CATV再放送

CATV業界は、新4K8K衛星放送の再放送実施に向けて急ピッチで準備を進めている。日本ケーブルテレビ連盟の吉崎正弘理事長に、新4K放送の再放送に向けた準備状況、課題などについて聞いた。吉崎氏は、4K対応テレビの普及予測に対し、新4K放送対応の第3世代STBのオーダーが少ないことを懸念。未加入開拓の絶好のビジネスチャンスを逃さないためにも、より多くの事業者の参加を求めた。また、ケーブルインターネットでの4K動画配信についても対応する必要があると指摘している。

「第3世代」のオーダー数には懸念

吉崎氏は、12月1日から開始される新4K8K衛星放送の再放送に向けたケーブル業界の対応状況について、「現在は、それぞれの事業者が実情に応じて4K再放送の準備を進めている。再放送に参入を決断した事業者の多くは、既にSTB、ヘッドエンドなどを発注済だ」と説明する。

再放送同意についても、「NHK、民放とも大筋で合意ができている」と明言。そのうえで、今後は各事業者が個別に対応することになるとし、「CATV事業者は決断しなければいけない時期に入った」と述べた。

4K対応テレビは現在、約450万台が出荷されており、日本全世帯（5200万世帯）の8－9%にあたる。吉崎氏は、新4K8K衛星放送の開始、そして20年の東京五輪／パラリンピックに向けて、4K対応テレビは急速に普及していくだろうとし、CATV事業者は、これに対応しないわけにはいかないと指摘。

日本の全世帯中、CATV経由でテレビを視聴しているのは3000万世帯で、そのうちSTBの多チャンネルでテレビを視聴しているのは813万世帯。吉崎氏は「12月に4K対応テレビが全世帯の10%に普及していると仮定すると、少なくとも（817万の10%程度にあたる）80万台のSTBは第3世代に切り替えないと、CATV契約者は新4K放送を楽しむことができない」と説明する。「CATV事業者は、この80万世帯を目標に新4K放送を届ける環境をつくる責任を負っている」と話した。

また吉崎氏は、新4K放送はCATV業界にとって大きなビジネスチャンスになると期待する。それは、4K対応テレビを持っているユーザーが新4K放送を視聴するには、外付けチューナーなどが必要になるが、第3世代STBを利用すれば、外付けチューナーと変わらない価格で、しかもアンテナ不要で新4K放送が視聴できるからだ。

そのため、CATV未加入、もしくはCATVに接続はしていても、契約はしていない世帯の加入促進につながると期待する。「新4K放送は多くのテレビ視聴者、CATV業界の双方にメリットをもたらす」と述べた。

新4K放送対応STBについては、大手CATV事業者4社を幹事社に、テクニカラー・パイオニア・ジャパンをベンダーとする共同調達が実施されている。 〈3面に続く〉

昨年春の第1次調達には99社が参加し11万台をオーダー。今春に実施した第2次調達と合わせて14万台のオーダーとなった。

吉崎氏は、新4K放送対応の第3世代STBについて「ある程度の量産が見込める台数にはなっているものの、目標の80万台には遠く及ばない状況」と話す。

CATVのSTBは800万台中、毎年平均100万台程度を入れ替えているが、それを考慮しても今の第3世代STBのオーダー状況は少な過ぎるとし、未加入開拓というビジネスチャンスを逃さないためにも、もっと多くの台数をそろえることが必要とした。

特集 ケーブルコンベンション2018 ケーブル技術ショー

11―15面

本号の主な記事

［放送］
スカパーとNTT東西/フレッツ・テレビで新4K8K衛星放送……3
放送改革議論の行方㊦/各項目の結論・措置に期限 ……4
［プロ機器］
九州放送機器展2018開催 150社が出展 ……6－7
コネクテックアジア2018① シンガポールで初開催の統合型展示会 ……8

映像新聞ウェブサイト
http://www.eizoshimbun.com
購読のお申し込みはこちらから

ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー Cable Tech Show 2018
ブースNo. B-13

高度BS再放送対応STB
2番組録画＋1番組視聴対応
DOCSIS 3.0内蔵・Hybridcast対応
ACASチップ搭載・C-CASカード対応
リモート視聴対応



BD-V570（HDD非内蔵）
BD-V5700R（2TB HDD内蔵）
テクニカラー・パイオニア・ジャパン（株）
〒143-0011 東京都大田区大森本町1-6-1
TEL:03-6634-8710 Email:japansales@technicolor.com
technicolor www.technicolor.com

MULTI FORMAT CONVERTER
XC 2 SERIES
2つのビデオプロッセッサ搭載
スーパーインポーズ・P in P 表示



HDMI・DVI・3G/HD/SD-SDIの広範囲な各種デジタル映像信号を2入力2出力で相互に変換するマルチフォーマットコンバータです
XC 2 ベーシックモデル XC 2 sio SDI入出力対応
株式会社 デジタルアーツ
http://www.digitalarts.co.jp

LAWO NAV & Control
V__matrix
SOFTWARE-DEFINED IP CORE
ROUTER & PROCESSING PLATFORM



未来のコンセプトを現実のものに
既存のハードウェアの概念から開放された、バーチャルモジュールによるソフトウェアデファインドIPコア
大容量の汎用IPスイッチを中核としてIPコアをネットワーク上に配し、バーチャル・ルーター・プロセッサーを構築
既存のシステム以上の可用性、柔軟性、拡張性を実現します
AIMS Media Networking Alliance RAVENNA

grass valley A BELDEN BRAND
ライブイベント中継システム
既存のレンズ環境にそのまま適応
HDR - HLG /ST 2084
15 Fストップのダイナミックレンジ
広色域 - BT.2020
IP入出力 - SMPTE 2022-6 /TICO
Native 4K *
HiSpeed (3X)
XtremeSpeed (6X)



K2 Dyno Universe
リプレイシステム



LDX 86N シリーズ
LDX 86 シリーズ
B4 マウントカメラ
＊いずれの機能もオプションにより対応
＊Native 4K 対応はLDX 86N
スチューダー・ジャパン－ブロードキャスト株式会社
映像システム部
システム提案、設計、施工
〒108-0022 東京都港区海岸 3-3-8
03-5730-0780 www.studer.co.jp

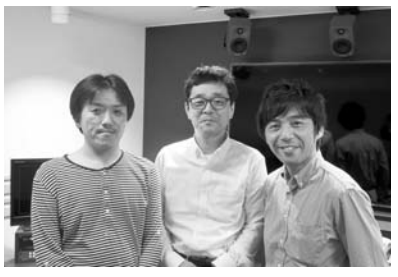
MITOMO STUDIO

編集室３室とＭＡ室１室を増設

オフラインから仕上げまで対応

三友は、ポストプロダクションスタジオ「MITOMO STUDIO」（東京都渋谷区）に「千城ビルスタジオ」を追加し、ノンリニア編集室1室とPD（オフライン）編集室2室、MA室1室の本格稼働をはじめた。

同社では2017年、設備が不足していたため、ポストプロダクション事業を担当する映像メディア事業部が入居していた千城ビルの機材倉庫フロアを改修し、MA室を増設した。岸賢一・映像メディア事業部長は「その後、1フロアでオフライン編集から仕上げまで完結させたいというご要望があったことから、編集室を準備し一貫した制作環境を構築した」と話す。



（左から）久富氏、岸氏、木村氏



PD編集室

編集室「ED−7」にはこれに加えて、ブラックマジックデザイン「ダビンチリゾルブ」とアビッド「メディアコンポーザー」、キャラクタージェネレーターとして「フォトショップ」を導入。マスターモニターはソニー「PVM−A250」、プレビュー用に65型の東芝REGZA、コスミックエンジニアリングのVUメーター「VUM2プレミアム」を設置した。

PD編集室「ED−8」「ED−9」は、ブラックマジックデザイン「スマートビュー4K」をモニターとする。

「MA−TR」「HDW−M2000」「SRW−5500」や、XDCAM「PDW−PD2000」「PDW−U2」を設置した。

スタジオ技術部の久富聡課長は、「編集室は1室でさまざまなソフトを利用でき、入出力も4Kに対応（ブラックマジックデザイン『ウルトラスタジオ4K エクストリーム3』）できる。

営業部の木村理部長は、「4K制作は顧客のなかで広がってきているようで、コンスタントに業務をいただけるようになってきた。より柔軟に当社のリソースを提供したい」と話す。また、「千城ビルスタジオでは今夏から、オフライン編集室を含めたサービスを本格的に開始する。番組制作をはじめ利用していただきたい」と話している。



打ち合わせやちょっとした作業に使えるスペースも用意した

「フェアライトコンステレーション」とDAW「プロツールスHDX」、サブDAW「フェアライトドリーム」、コントロールサーフェス「アーチストミックス」の構成とした。アナウンスブースは2人が作業できる広さを備えている。

マシンルームには、VTR「HDW−M2000」「SRW−5500」や、XDCAM「PDW−F」渋谷公園通りビルスタジオには4Kマスターモニターを設置する編集室もあり、作業内容に合わせてトータルで運用していく予定だ」と話す。

また、音響環境を5・1chサラウンドとしているので、同社が多く作業する映画のフォーマット編集に適している。

素材は、三友が展開するNASサーバー「メディアバケット」で共有する。編集用のネットワークは10ギガビットイーサネットを敷設した。NMF渋谷公園通りビルスタジオとはVPN接続しており、データを迅速にやりとりできる。

エーディテクノ

12G−SDI光延長器など発売

ラックマウントユニットも展開



UHD_M_OTR

エーディテクノは、デジタルフォーキャスト社製の4K信号変換・分配・延長製品シリーズ「ブリッジUHDマイクロ」から、12G−SDI光延長器など5製品を7月31日に発売する。小型軽量でねじ式のDCコネクターによりケーブルが抜けにくい。携帯性と汎用性を備え活用しやすい。

「UHD_M_OTR」は、12G−SDI信号を2本の光ファイバーケーブルで双方向に同時伝送する送受信機セット。SDIマルチフォーマットに対応し、2芯シングルモード光ファイバーで最長10㌔まで伝送する。市場想定価格は約22万円（すべて税別）。

「UHD_M_DA」は、マルチフォーマット対応の1入力3出力SDI分配器。12Gケーブルイコライザーとリクロック機能により、信号を安定して分配出力する。

「UHD_M_HOT」（送信機）と「UHD_M_OHR」（受信機）は、4KのHDMI2・0信号を1本のシングルモード光ファイバーケーブルで接続し、最長10㌔を伝送する。

「UHD_M_PLUS」は、同シリーズ製品を最大10台収納する19㌅ラック対応の2Uユニット。1つのACアダプターで全スロットに電源を一括供給する。市場想定価格は約8万円。

ブラックマジックデザインが発表

ＭＢＰ用の外付けＧＰＵ

リゾルブでの作業効率を向上



Blackmagic eGPU

ブラックマジックデザインは13日、「ダビンチリゾルブ」などでの映像制作に向けたグラフィックプロセッサー「eGPU」を発表した。アップルと協力して開発。アップルの公式オンラインショップおよび実店舗で、8万9800円（税別）で販売している。

AMDのGPU「Radeon Pro 580」を内蔵し、サンダーボルト3ポート2基およびHDMI2・0、USB3・1コネクター4基を搭載。13日に発売される新しいMacBook Proなどに接続して利用できる。

ダビンチリゾルブ15での編集パフォーマンスを向上するため、リアルタイムのエフェクトや、多くのノードを使用したカラーコレクション、フィルムグレイン、光線やブラーなどの効果を利用できる。静音設計により駆動音も目立たない。

Ginza Sakuraya
TOTAL AV SOLUTION

ハイクオリティな映像表現に必要な機器のすべてを、
トータルにサポートできる豊富なラインナップと技術力。

それが、プロフェッショナルたちに選ばれる理由。

Capturing 撮る
Editing つなぐ
▶▶ 銀座サクラヤのCESコンセプト Showing 見せる



映像・音響機器のレンタル・販売　株式会社 銀座サクラヤ
http://www.ginzasakuraya.com

スカパーとＮＴＴ東西

フレッツ・テレビで新４Ｋ８Ｋ衛星放送

ＢＳ／ＣＳ左旋に対応

周波数変換　既存宅内設備で受信可能に

スカパーＪＳＡＴ（東京都港区／以下、スカパー）とＮＴＴ東日本（東京都新宿区）、ＮＴＴ西日本（大阪市中央区）は、12月１日から開始される新４Ｋ８Ｋ衛星放送を「フレッツ・テレビ」などの光回線テレビサービスで提供すると発表した。ＢＳ／１１０度ＣＳ左旋円偏波にも対応する。

フレッツ・テレビは、スカパーとＮＴＴ東日本、ＮＴＴ西日本が光回線により、ＲＦ信号で地デジ、ＢＳ、１１０度ＣＳを提供しているサービス。今回、ＢＳ／１１０度ＣＳ左旋の４Ｋ・８Ｋ放送への対応方針が決まったことから発表した。

ＢＳ放送の周波数と同様の帯域であるため、機器の交換や受信環境の整備は不要だ。しかし、左旋放送は現在より高い周波数を使用しているため、アンテナや増幅器、テレビ端子などの宅内設備の改修が必要になる。

そこで３社は、新４Ｋ８Ｋ衛星放送の左旋放送をヘッドエンド（受信拠点）にて宅内設備で伝送可能なＩＦ周波数に変換し、光回線で家庭まで伝送する方式にすることで既存設備でも信号が通るようにした。

宅内では、光回線からＯＮＵ（光回線の終端装置）で受けたＩＦ周波数をテレビの直前で専用アダプターによって元の左旋４Ｋ放送の周波数に戻す。これにより新４Ｋ８Ｋ衛星放送対応テレビやチューナーで同放送を視聴できる。

ＢＳ右旋は12月１日から、ＢＳ／１１０度ＣＳ左旋は19年夏以降に提供を開始する予定。

今回のサービス提供に伴い、フレッツ・テレビの月額料金は、テレビ視聴サービスが３００円、フレッツ・テレビ伝送サービスが４５０円の合計７５０円となる。左旋受信用専用アダプターはレンタルとし、料金は合計で１０００円に収まるようにする。

さらに吉崎氏は、新４Ｋ放送の再放送とともに、ケーブルインターネットでの４Ｋ動画配信についても、「ＦＴＴＨ化を進めるなど対応を図る必要がある」と語る。

契約者は定額料金なのに対して、ＣＡＴＶ事業者の上位接続料金（従量課金）がかさんできている現状をどう打開するのかなど、ネットでの４Ｋ映像配信対策を講じる時期にきていると指摘。

「業界全体で『ケーブルネット４Ｋ』についても考えてほしい」と要望した。

加えて吉崎氏は、ＦＴＴＨ化に関連し、都市部の集合住宅におけるラストワンマイル問題を解消する方法として、「無線の活用を真剣に検討する必要がある」との認識を示す。具体的には、地域のＣＡＴＶ事業者が免許対象となっているが地域ＢＷＡ（広帯域移動無線アクセス）の可能性を検討するものだ。

８Ｋに関しては、今後の８Ｋテレビの普及がまだ見通せない状況であることから、新４Ｋ８Ｋ衛星放送の開始以降、その動向を見守り、普及状況に遅れることなく対応できるよう準備しておくことが大切と述べた。

日本ケーブルテレビ連盟　吉崎理事長に聞く

新４Ｋ ＳＴＢは年間２００万台の潜在力

ＣＡＴＶ事業者の積極的参加に期待

ネット４Ｋ視野にＦＴＴＨ化を

〈１面から続く〉



吉崎理事長

吉崎氏が懸念しているのが、まだ新４Ｋ放送への参加の判断ができていない事業者が多いことである。

ＣＡＴＶの全事業者数は５００（ケーブル連盟の会員社数は３７２）。そのうち、上位１００社でＣＡＴＶ視聴可能世帯の95％をカバーする。吉崎氏は、上位１００社はほぼ、新４Ｋ放送に参加してくれるだろうと予想するが、それ以外の４００社の間では参加の意思が固まっていない事業者もある。

ＣＡＴＶ事業者は、人口減少などで経営に厳しさが増しているところも少なくない。しかし今、新４Ｋ放送の波に乗り遅れると、５年先、あるいは10年先の経営が見通せなくなると吉崎氏はみている。その判断のリミットが迫っていることから、「乗り遅れ」をなくす啓蒙活動に力を注ぐ考えを示している。

新４Ｋ放送開始が起因する２・５世代ＳＴＢの買い控え、年間１００万台の入れ替え需要、そして未加入開拓を合わせれば、第３世代ＳＴＢは２００万台になってもおかしくないとその潜在力について言及した。

そうした中で、吉崎氏が何より心配なことと指摘するのが、新４Ｋ放送開始の12月１日時点で第３世代ＳＴＢが不足することだ。「その状況だけは何としても避けたい」と力を込める。

第３世代ＳＴＢについてはパナソニックシステムソリューションズジャパンも新４Ｋ放送の開始に間に合わせる方針であることから、ＣＡＴＶ事業者の新４Ｋ放送への積極的な取り組みに期待を寄せた。

ＣＡＴＶ事業者が第３世代ＳＴＢを導入するにはＡＣＡＳスキームへの参加が必要になるが、これには昨年度と今年２月末のエントリーの累計が１４８社／１８２局となっている。

これは多チャンネル視聴世帯ベースでは７６０万世帯。そのうち、４Ｋ再放送と視聴制御で申し込んだ事業者の局数は１５６局で、多チャンネル世帯ベースでは７００万世帯。再放送のみの申し込みは26局／60万世帯であった。

吉崎氏は、主要な事業者には既に申し込んでもらっており、ＡＣＡＳスキームについては心配していないとした。

一方で吉崎氏は、新４Ｋ放送ではコンテンツへのアプローチも重要と指摘する。鍵になるのが現在放送中のＣＡＴＶ業界共通４Ｋ専門チャンネル「ケーブル４Ｋ」。

同チャンネルは２・５世代のＳＴＢで視聴されているが、同ＳＴＢは新４Ｋ放送には対応していないため、２・５世代ＳＴＢの導入は進んでいない。せっかく地域発の４Ｋコンテンツを制作しても視聴者が少なく、制作するＣＡＴＶ事業者のモチベーションも高まらないという実態があった。

第３世代ＳＴＢは本格的普及が期待できることから、「ケーブル４Ｋ」はＣＡＴＶの強力な武器になると吉崎氏はみる。

ケーブル４Ｋは、全国の各事業者が地域の伝統や文化、風景などを題材に番組を制作しているが、より多くの事業者が、それぞれの個性を反映した多彩な４Ｋコンテンツ制作に取り組むことが必要との認識を示した。



放送改革議論の行方（上）

推進会議答申で何が変わる？

内閣府の規制改革推進会議（以下、推進会議）が6月4日に公表した第3次答申で、議論が具体的に動き出した。総務省の「放送を巡る諸課題に関する検討会」（以下、諸課題検）の議論も活発化している。NHKが2019年度の開始を目指すテレビ番組のインターネット同時配信も解禁する方向に舵を切った。先週都内で、情報通信政策フォーラムが開かれたが、ここでの議論では事態がどう動いていくのか輪郭が浮かび上がった。

各項目の結論・措置に期限

配信基盤構築　年度内に議論の場

新規参入促進は来年度中に実施

★放送の未来像と課題

情報通信政策フォーラムには、推進会議で放送改革を議論した投資等ワーキング・グループの原英史座長が出席した。推進会議は「農林」「水産」「医療・介護」「保育・雇用」以外のテーマは何でも扱うということで、放送改革もこの中で議論されている。

原氏のプレゼンは、まず「放送の未来像と課題」について詳述された。

旧来のメディアの姿は、通信と放送が縦割りで別々に存在していた。

内閣府の科学技術政策では、社会は狩猟・農耕・工業・情報と進み、新たにSociety5・0と人材を生かした新たな成長戦略」「民主主義の基盤、社会的機能の進化」――といった状況だ。

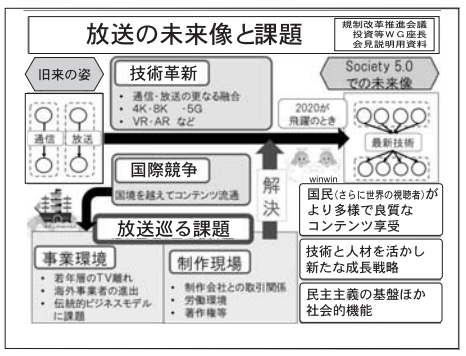
ただし技術の進化は、国際競争の激化を意味し、コンテンツが国境を越えて流入する。それにより国内の放送は課題に直面する。若年層のテレビ離れが急速に進む中、従来のビジネスモデルだけでは対応が難しくなる。

コンテンツの制作現場にも課題がある。テレビ局と制作会社の取引関係が対等とは言えない部分が残っている。いわゆる優越的地位の乱用問題だ。「働き方改革」に象徴される、労働環境にも問題が残る。正常とは言えない長時間労働の実態だ。

そして最大の課題は、ネット配信などコンテンツの2次利用に課題が残る著作権問題だ。

推進会議・投資等WG原座長の認識では、特に著作権問題が難しいという。もともと電波による伝送システムが、最新の技術を経由してすべての生活者に行きわたるようになる。送り手・媒体・受け手と、レイヤー別の構造がイメージされた。

その際の最新技術は、「通信・放送の更なる融合」「4K8K、5G」「VR・AR」など。現出するのは「国民や世界の視聴者がより多様で良質なコンテンツを享受できる」「技術革新」「Society5.0での未来像」だ。



★改革の具体的内容

推進会議・第3次答申の放送改革にかかわる部分は、各項目で期限が決められた。結論あるいは一定方向の措置が具体的に求められたのである。

まず大きいところでは、通信と放送の枠を越えたビジネスモデル構築で、何点か挙げられた。

第1は「インターネット配信の推進」で、新たなプラットフォームや配信基盤の構築が求められている。議論の場を今年度中に設けることとなった。ネット配信を実現しやすくするための環境整備である。産官学で新たな成長戦略を構築し、技術の実証をしていく方向になる。その際は必要に応じてNHKの技術開発の成果が導入される。具体的な設備を活用する道も視野に入っている。

2番目は新規参入の促進だ。放送大学の関東における地上放送の跡地の活用、衛星放送で新規参入がしやすい座組の構築、そして現在空いているV―high帯域の活用が求められた。今年度中に措置を講ずる予定だ。

さらに、ローカル局の経営基盤のあり方の検討がある。現状のキー局との縦系列だけでなく、圏域内外の横系列での連携などを視野に入れ、経営基盤の強化や規制・免許のあり方などが、検討される。今年度中の開始で結論は来年度中と定められた。

その他の柱としては、グローバル展開・コンテンツの有効活用がある。NHK国際部門の充実や抜本的な強化が求められた。検討および結論は今年度中である。さらに放送コンテンツの海外展開の支援がある。既に実施されている支援事業の強化・継続、海賊版対策や違法コンテンツ対策の抜本強化も挙げられた。

さらにNHKアーカイブの活用についても、踏み込んだ提言がされている。国民の受信料で制作された過去のNHK番組などは、国民の財産という認識がまずある。その上で、一定分野のコンテンツは、一定期間後に無料で開放する道が求められている。他の放送事業者やコンテンツ事業者の活用促進策だ。やはり今年度中に議論の場を設置し、来年度中に結論を得るとされた。

ほかにも、制作現場が最大限力を発揮できる環境整備として、制作関連の取引や、働き方など制作現場の環境改善が挙げられた。コンテンツ流通の推進についても言及されている。いずれも今年度中に検討を始め、来年度までに結論を出し措置するように求めている。

このように推進会議は具体的にテーマを明示し、しかもスケジュールを明確にしている。これによって諸課題検の議論が活発化した。NHKのネット同時配信解禁の方向性が示されたのも、こうした流れの中にある。

しかもプラットフォーム構築・新規参入の促進・ローカル局の活性化など、複数のテーマに渡る具体策が、今回のフォーラムでは明らかにされた。原座長も実はこれが隠し玉的切り札と明言した。その秘策とは何か、次回詳述する。

リリース開始 Special Price

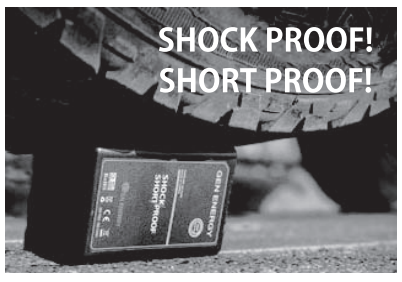
※2018 年 7 月末日まで

従来型 V バッテリーの約半分の大きさ

Hawk-Woods 製 Mini Batteries

- VL-M50　14.4V 50WH　Size : 10.3 x 7 x 3.5 cm / 294g　¥31,000
- VL-M98　14.4V 98WH　Size : 10.3 x 7 x 4.5 cm / 498g　¥43,000
- VL-M150　14.4V 150WH　Size : 10.3 x 7 x 6.3 cm / 695g　¥63,000





超頑丈 V マウントバッテリー

Gen Enagy 製タフネス Batteries

- G-B100/98W
- G-B100/160W or 195W
- G-B100/290W

ARRI 推奨 ALEXA LF 用　26V ハイパワー V-Lock Batteries

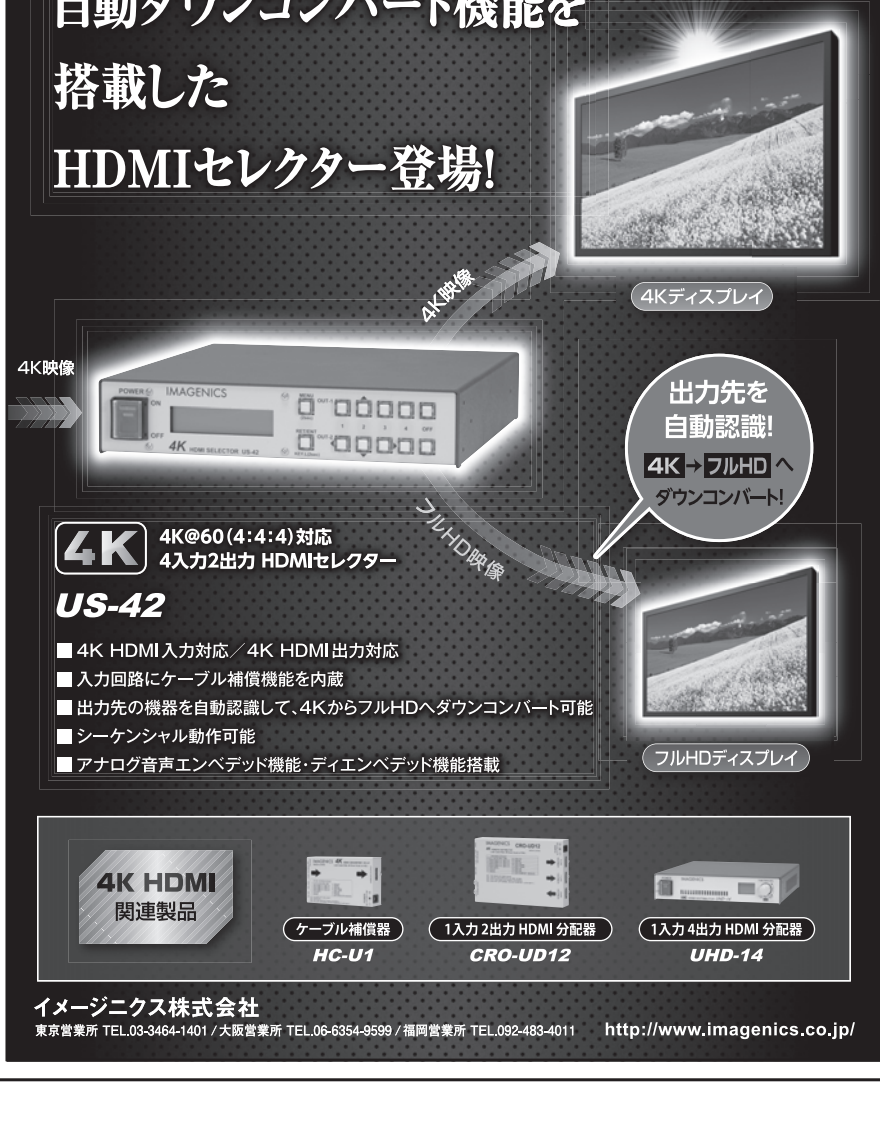


※上記価格はすべて 2018 年 7 月時の税抜き価格です。予告なく変更することがございます。

Seika Digital Image
西華デジタルイメージ株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂 4 - 9 - 6 （ タク赤坂ビル ）
【 受付 : 3F / ショールーム : 6F 】
TEL : 03-3405-1280　website : www.seika-di.com
FAX : 03-3405-1282　mail : info@seika-di.com

設計から製造までメイド・イン・Japanの信頼品質
IMAGENICS

4KからフルHDへ
自動ダウンコンバート機能を
搭載した
HDMIセレクター登場!



4K　4K@60(4:4:4)対応
4入力2出力 HDMIセレクター

US-42

- 4K HDMI入力対応／4K HDMI出力対応
- 入力回路にケーブル補償機能を内蔵
- 出力先の機器を自動認識して、4KからフルHDへダウンコンバート可能
- シーケンシャル動作可能
- アナログ音声エンベデッド機能・ディエンベデッド機能搭載

4K HDMI 関連製品

ケーブル補償器 HC-U1
1入力2出力 HDMI分配器 CRO-UD12
1入力4出力 HDMI分配器 UHD-14

イメージニクス株式会社
東京営業所 TEL.03-3464-1401 / 大阪営業所 TEL.06-6354-9599 / 福岡営業所 TEL.092-483-4011
http://www.imagenics.co.jp/

IT展示会「CEBIT2018」報告③

巨大企業が新興企業を支援

成果を収めた有望企業を買収へ

ドイツ鉄道などが新技術披露

6月に開催された欧州のIT祭典「CEBIT2018」（ドイツ・ハノーバー／主催＝ドイツメッセ）では、大企業が関連分野におけるスタートアップ（新興企業）を支援する姿が目に付いた。スタートアップは、ベンチャーキャピタルやエンゼルから資金を集め、株式公開で独り立ちをするという形が、以前は当たり前だった。最近は関連分野の巨大企業から資金を得て、最終的にはそれらの企業に買収されることを目指している。大企業は、有望企業を早くから見つけられるメリットがあり、新興企業も業界へのアクセスが容易になる。Win-Win（互恵的）関係にある姿は、会場のあちらこちらに見えた。

（杉沼浩司）

★DBの支援

ドイツ鉄道（DB）は、ドイツの中長距離鉄道網を運営する企業で、ドイツ国鉄を源流とする。日本のJRと同様に国営企業を起点として民営化された歴史を持つが、旅客部門は1社で全土をカバーしている。日本と異なるのは上下分離（線路の所有と鉄道の運営を分ける方式）を採用しており、同じ線路の上に複数の会社の列車が走ることだ。DBは、高速列車「ICE」で知られている。

ドイツ随一の鉄道事業者は、ここ数年CEBITにブースを構えている。同じくブースを構えるドイツ連邦軍が目的とするリクルート活動ではなく、新興企業との接点を持つためだ。DBのテーマカラーはグレーと赤（列車にこの色が使われている）だが、ブースもDBを想起させるデザインが取り入れられている。

今年のDBは、客車、駅、鉄道システムの改革がテーマだった。DBは22種の客車形式を持つが、間もなく刷新が始まる。そのうち2例が示された。いずれも、内装のインテリジェンス化だ。通勤・近距離運行用列車の出入口付近にサイネージを配し、運行情報や駅情報を示す。スクリーンが20型程度と日本で導入されている画面より大きい。

別の種類の列車は60型程度の大型サイネージを備え、列車内でスポーツ番組などを表示できるとした。また、USB充電機能を持ったテーブルも備え、スマートフォンなどへの電力供給に対応する。サイネージ運用については、スポンサーを募るとのことであった。

★LPWAを活用

軌道管理をするDBネッツェのIT部門にある社内ベンチャー的な組織は、DB各駅に備えられている時計の同期機構を開発した。同期に長距離伝送が可能な微弱電波無線技術「LPWA」を用いるのが特徴である。



IoT時計を開発したDBネッツェのウィルナー博士

開発を主導したオルガ・ウィルナー博士は、ドイツ鉄道の各駅に設置されている時計の同期機構を、現在の有線型もしくは無線LANによる同期のものからLPWAの1方式「RoLaWAN」に置き換えることで、機能向上と無線化による管理コスト削減が可能であることを強調した。

また、時計が高所に設置されていることを利用して、時計に人流センサーを取り付け、時計が周辺の混雑具合を報告する「IoT化」も達成した。さらに、時計の近傍に非常ベル用ボタンを設置し、押されると時計を介して無線で管制センターに連絡がなされる機構も取り入れている。自営で双方向通信に使えるLoRaWANの強みを生かす。

ウィルナー博士によると、ベルリンでの実証実験では同期信号は44キロメートル先まで届いたという。実展開時は、2キロメートルごとに中継する計画とのことであった。2019年から数年を掛けてドイツ全土に広げる計画という。

同社は、この問題を解決した製法を開発した。DBの出資を得て、現在、ドイツ南部のシュツットガルト


耐候性のある案内床を開発したSUIT社のラインホルド社長㊨

際運行も頻繁であるし、国内でも多様な形式があるようだ。また、ホームは長いが列車は短い、といったものもある。こうなると乗客は停車位置、そしてドア位置を知るのは大変で、入線後に右往左往することになる。

ベルリンの新興企業SUITは、プラットフォーム表面のタイルに光ファイバーを埋め込み、情報表示を可能とした。創業者のイェルン・ラインホルド氏によると、従来の素材、加工技術では、ファイバーを埋め込むと膨張率の違いでタイルにヒビが入り使用に耐えなかったという。

同社は、この問題を解決した製法を開発した。DBの出資を得て、現在、ドイツ南部のシュツットガルトの駅で実証実験中という。また、運行管理システムと連携し、客車の混雑度合いに応じてタイルの輝点の色を変えて報せる様子も示された。「タイルの強度、滑りやすさなどを規格化して、欧州全域に拡大したい」とラインホルド氏は構想を語った。


エンボテックのドマーディ博士

★自動運転に布石

自動車大手の独フォルクスワーゲンも新興企業を支援し、自社のビジネスにその力を生かそうとしている。CEBITでは、フォルクスワーゲンのブースで、出資先の企業がアピールする時間が設けられていた。ここに登場した1社が、スイスのエンボテック社だ。

エンボテックは、ETH（スイス連邦工科大学チューリッヒ校）の研究グループから生まれた大学発の企業である。エンボテックは、自動運転時の車両の軌道（経路）計算を専門とする。自動運転全体ではなく、軌道の算出に特化したところに特徴がある。

同社の創業者でCTO（最高技術責任者）のアレキサンダー・ドマーディ博士によると、自動駐車が実用レベルにあるという。同社の自動駐車ソフトウエアは、「部品」として部品メーカーに納入される。既に「世界的ティア1（自動車メーカーに直接納品する部品メーカー）での評価を受けている」（ドマーディ博士）という。

ティア1とされる部品メーカーは、独ボッシュ、米デルファイ、独コンチネンタル、デンソー、独ZFの5社が知られている。

しかし、非常に早い時期から有望企業を手中に収めることができるだけに、投資は有効な手段といえる。

ドマーディ博士も「われわれの技術の利用者となる企業の要望を聞く機会を得られる。資金的なつながりがなかった場合、経路を開拓するだけでもひと苦労で、新興企業には負担になる。フォルクスワーゲンの出資により、多くの負担が軽減された」と歓迎する。

☆◆◇◆☆

DBもフォルクスワーゲンも、有望な新興企業を買収した訳ではない。初期の活動資金を出資している。成果を収め、はい上がった企業にのみ買収がオファーされる。ベンチャーキャピタルとは異なる新たな発展形態は、産業を活性化しそうだ。

同社の開発する「部品」がソフトウエアであるため、「技術が成熟した時にはティア1や自動車メーカーが独自に開発するのではないか」との疑問を同博士にぶつけてみた。答えは「自動車業界は高度に分業化されており、われわれを排除し自社で開発するメリットはない。それ故に、採用に向けてこちらも多大な努力を払っている」とのことであった。

フォルクスワーゲンは、同社に投資をしているが、自動駐車技術としての採用は約束していない。



九州放送機器展2018開催

150社出展 2278人が来場

主催者による独自企画が定着

セミナー、トークショーも好評



会場全体

九州最大のプロフェッショナル向け放送・業務用機器展「九州放送機器展2018」（主催：日本ポストプロダクション協会）が7月5、6日の2日間、福岡市博多区の福岡国際センターで開催された。第15回となった今年は150社（昨年153社）が出展。来場者は前回を158人上回る2278人と発表された。初日は、オープンから順調な人出があったものの、次第に降り出した雨は大雨となり、2年連続で記録的豪雨が重なった格好となった。特に2日目の来場者が初日に比べ半減した。

今年も天候に恵まれなかったが、定番の主催者セミナーや照明ワークショップは人気の様相で、さらにこの数年はスピーカー／ヘッドフォン／マイク試聴会、アウトレット販売コーナーを設け、カメラコーナーに始まった主催者側の独自企画が、この展示会に定着し、特色を出している。

主催者セミナーは、カラリストの杉山裕信氏によるカラーグレーディングや、鈴木仁行氏（レスパスビジョン代表）によるポストプロダクションが挑む映画製作、さらには4K本放送、VR音響など各種講演が用意された。また今回、2階のコーナーにてユーチューバーのトークショーが終日開催されるなど、ユニークなイベントもあった。

機器展示は、12月に始まる4K本放送を控えた中、4K、HDR、12G—SDI、IP伝送などの各種提案が見られた。



パナソニックは5.7Kコンパクトシネマカメラ「EVA1」をハンズオン展示。5月末のアップデートでALL-Intra、RAW出力に対応した。4Kスタジオカメラ「AK-UC4000」や12G-SDI対応大型ライブスイッチャー「AV-HS8300シリーズ」などもそろえた



池上通信機は2／3型4K CMOS3板式カメラ「UHK-430」、4K／HD対応スタジオカメラ「UHK-435」、4Kモニター「HQLM-3125X」「HQLM-1720WR」、4Kマルチプラットフォームスイッチャー「MuPS-5000」を出展



アストロデザインはシャープ8Kカムコーダーをはじめとする8K映像制作環境を実演。参考製品として世界初DLP 8Kプロジェクターを展示。新4K8K衛星放送におけるデータ放送事前検証システム「CX-5546」もデモした



共信コミュニケーションズは4K／8K／HDR／HFRに対応したオンライン編集／カラーグレーディングのSGO「Mistika」や、AI利用の動画文字解析コンテンツ管理システム「DaAlps」、アビッド「Pro Tools MAシステム」などを実演



ソニーは推進する「SR Live for HDR」で4K HDR／HD HDR／HD SDR映像の同時制作を訴求。HDRプロダクションコンバーターユニット「HDRC-4000」を中心に、高品質・高効率なライブ映像制作を提案



朋栄はサブとOTC連携を実演したほか、4K対応ビデオスイッチャー「HVS-2000」や、12G-SDIで最大72入力×72出力のマトリクス構築が可能なルーティングスイッチャー「MFR-4000」、HDR/SDR簡易変換機能搭載マルチビューワー「MV-4300」など多彩に展示



キヤノンは発売間近の5.9Kフルサイズセンサーを搭載したCINEMA EOS SYSTEM最上位機種「EOS C700 FF」を出展。高い解像度と15Stop以上の広いラチチュードにより、ハイエンドな映像制作ニーズに対応する



キヤノンは2階を利用し、望遠レンズをデモ。8月発売予定の4Kポータブル24倍「CJ24e×7.5B」はワイド端焦点距離7.5ミリメートル、小型・軽量、画面全域への十分な光学性能、色収差補正機能、高機能デジタルドライブユニット（eXs-IV）などが特徴



株式会社ストロベリーメディアアーツ
本社：〒751-0806　山口県下関市一の宮町 3-11-4
TEL：083-263-3040　FAX：083-263-3041
http://www.smacom.jp

全国対応
● 東　京　03-6712-6150
● 美女木　048-487-8668
● 名古屋　052-269-8668
● 大　阪　06-6318-1551
● 広　島　082-299-7040
● 松　山　089-971-1280
● 福　岡　092-720-4221
● 鹿児島　099-296-8046
● 沖　縄　098-869-4315

ライブ対応編集機など新型も



ストロベリーメディアアーツがデモした伸縮自在のカメラクレーン「Cinex X-JIB Pro」は、全長5.7㍍、重量約28㌔㌘とクラス最軽量を実現。MOVIやRONINなどのジンバルが利用できる。また、屋外・屋内向け1.8―3.9㍉㍍ピッチの高精細な各種LEDビジョンを展示した



ストロベリーメディアアーツで展示されたシャープ製4Kタッチディスプレイ「BIG PAD」は80型をラインアップに追加。フルHD4分割機能やなめらかな書き味、操作感が特徴



スチューダー・ジャパンーブロードキャストはアビッドのスポーツ中継システム「FastServe | LiveEdit」の取り扱いを開始。インジェスト・編集・送出を単体で実現する



武蔵エスアイが販売を開始したSimplylive製オールインワン・ライブプロダクションシステム「Vibox 8」は複数の映像音声入力の同時収録、ビデオ／オーディオ・ミキシング・スイッチング、ビデオキーヤー、ハイライト編集など多数の機能を1台に集約



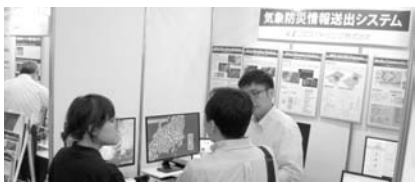
ニコンシステムはグループ会社Mark Roberts Motion Controlのロボット制御技術による撮影の自動化・省力化ソリューションを実演。また、テープノイズや光点滅、ラウドネス等の自動検出が可能な映像評価ソリューション「VQ-Revolution」も展示



ニューエックスが展示したCIS社の独自IPSアルゴリズムClairvus搭載で高画質を実現した4K60p小型カメラはQuad 3G-SDI、1.0型CMOSグローバルシャッター搭載。フルHDタイプはさらに1/4サイズと小型



ローランドは最大128chを自由自在に定義できるミキシングコンソール「M-5000」に、TBSテレビとラグナヒルズが開発協力したiPad上のタッチフェーダーをデモ。多数のマイクを配置するスポーツ中継で制御がしやすくなる



クロスイメージングは放送メディア向け地震・津波などの防災情報送出システム、気象情報システム、緊急地震速報システム、CATV向けお天気チャンネルシステムを出展。ソフトウエアをはじめ、グラフィックスボード、ドライバーや各種デバイスは自社で設計開発



アスク/ディストーム共同ブースでデモした米NewTek製ライブプロダクションシステム「TriCaster TC1」はタッチパネルモードを追加。同ブースは対面のパナソニックブースとNDIによるIP接続で連携した



エーティコミュニケーションズは世界最小クラスの衛星端末「Satcube」を出展。軽量8㌔㌘、Kuバンド衛星を使用して約5Mbpsの伝送が可能



イングスJBSは大阪・福岡、グループ会社のある広島にて、レンタル撮影機材をそろえていることをアピール。大阪で借用した機材を福岡や広島で返却できる



エル・エス・アイ ジャパンは、リアルタイム字幕送出システム、リアルタイム字幕制作システム、MXF字幕制作システム、4K字幕システムを実演



ジェネレックの日本法人ジェネレックジャパンは設立1周年を迎えて出展。同軸モニタースピーカー[The Onesシリーズ]を中心に展示した



タックシステムは豪DECIMATOR DESIGNの小型SDI／HDMI双方向コンバーター「MD-LX」と、3G／HD／SD-SDI×4入力を4分割表示できる中継現場に適したマルチビューワー「DMON-QUAD」を出展。英ADDER社IPベースKVMマトリクス「INFINITY」も展示した



ジャパンマテリアルはビジュアルリサーチ製ディスクレコーダー「D-Stream LT」、2Dキャラクタージェネレーター「Visual CG」、マックスラボ製IP伝送ビデオウォールシステム「MuxLab H.264／H.265エンコーダー・デコーダー」などを出展



コスミックエンジニアリングは12G／3G／HD／SD-SDI 32チャンネル、AES／EBU 8系統16chに対応したマルチフォーマットオーディオモニター「SP105-12G-32」をはじめ、光ファイバー伝送カメラアダプターの新シリーズなどをそろえた



松田通商は米MultiDyne社の超小型ファイバートランスポート製品「DogBone」、SD／HD／3G／12GのSDI信号をシングルモードファイバーで高品質伝送する「Silver BULLET」を披露



ガンスイは独yellobrikの12G-SDI対応ミニコンバーターやCWDMモジュールを展示。12G-SDIからの光ファイバー長距離4K伝送を実演した



富士ライト商事はIKAN、Kinotehnik、creamsource Microなどの各最新LED照明を展示した



イメージネットの新製品、LTEモジュール内蔵シリアル制御伝送装置「SCU-430 TX／RX」はイベント、自然災害などで臨時に情報カメラを使用する際、モバイル回線を使用し短時間でシステム構築を可能にする



さくら映機は4Kライブ制作と4K HDRリアルタイム編集の2つの機能を併せ持つ新映像制作システム「4K Prunus Live」を発表。ライブ制作ではXAVCで4K収録しながらのプレビュー確認や追っかけ編集によるダイジェスト作成が可能



フォトロンはアビッド／EVS製品に加えて今回、リアルタイムグラフィックス演出システム「Vizrt」とTrackMen社イメージベースカメラトラッキングシステムを使い、カメラに連動する手軽なAR演出をした



エヌジーシーはHEAR360社の全方位バイノーラルマイクロフォン「8ball」と、KANDAO製3D360度VRカメラを組み合わせた没入型コンテンツ制作を提案。8ballは、任意の8chレコーダーで録音可。臨場感のあるVR音を収録する



イメージニクスは4K対応HDMIセレクター、HDMI分配器などを中心に出展。4K（60p／4:4:4）HDR HDMI対応製品として、4×2マトリクススイッチャー「US-42」、1入力2分配器「CRO-UD12」、1入力4分配器「UHD-14」などをラインアップ

変換器など周辺機材が充実



エーディテクノは12G-SDI入力に対応した12.5型ワイド4K IPS液晶モニターを参考展示。6G／12G-SDI伝送とクワッド3G-SDI伝送（2SI／2SQ）に対応。SDI入出力端子を各4系統、入力端子としてHDMI2.0（4K／60対応）×1系統、HDMI1.4（4K／30対応）を3系統搭載



富士フイルムは東京、名古屋、大阪（地震の影響で中止）、札幌で開いた内覧会の一環として九州に出展した



カメラコーナーのステージには被写体を兼ねたジャズバンドが演奏し、会場はなごやかな雰囲気に包まれた

コネクテックアジア2018 ①

シンガポールで初開催の統合型展示会

3つのコンベンションで構成

最新のイノベーションを集約

「ブロードキャストアジア」には世界各国から634社・団体が出展

「最新のメガ・テクノロジー・イベント」をうたった「コネクテックアジア2018（ConnecTech Asia 2018）」が6月26―28日の3日間、シンガポールで初開催された。とはいえ、このイベントは、昨年まで「ブロードキャストアジア（BroadcastAsia＝BA）」「コミュニックアジア（Communicasia＝CA）」の2本の旗印を掲げていたコンベンションに、「ネクストアジア（NXTAsia）」を加えて1本化したものである。会場は、「BA2018」がサンテック・シンガポール、「CA2018」と「NXTAsia2018」はマリナベイサンズ・コンベンション・センターに分かれての開催となっていた。今回は、「開幕セレモニー」と「BA2018」についてレポートする。

（神谷直亮／衛星システム総研代表、メディア・ジャーナリスト）

初日の朝にマリナベイサンズで開催された「開幕セレモニー」には、シンガポール政府のS・イスワラン通信・情報大臣と、「コネクテックアジア2018」を主催したUBMアジア社のM・ガンディ副社長が登壇した。

イスワラン大臣は「東南アジアの強みは、中産階級が拡大しており、その半数以上はまだ30歳以下である。技術志向が強い彼らは、インターネット経済の拡大に大いに貢献している。例えば、インターネットショッピング業界は、2017年に377億㌦を売り上げ、21年には648億㌦に達する見込みである」と述べた。

そして「コネクテックアジアは、シンガポールを中心とした通信、放送技術、サービスなどの全体的なエコシステムと幅広いスパンの知識を習得する絶好の場であり、ぜひ有効に活用してデジタルエコノミーの波に乗ってほしい」と要望した。

一方、ガンディ副社長は、「BAの会場には、最新の4K・8Kカメラ、ウルトラHDコンテンツ、OTTプラットフォーム、プロダクション機器などが展示されている。CAでは、早ければ来年に始まる5Gの最新技術を探索することができる。NEXAsiaでは、AI、VR／AR、ロボット、ブロックチェーンなどにスポットライトを浴びせている。さらに、WeOneとCresmosの協力を得て、eSportsが体験できるeSports Arena Studioを設営した。最新のイノベーションと知識を集約した本展示会を、皆さんのコネクテッドワールドをスマートに構築する場として役立ててもらいたい」と語った。



開幕セレモニーに登壇したシンガポール政府のイスワラン通信・情報大臣

★IPライブ制作をデモ

「BA2018」の会場には、日本のソニー、パナソニック、キヤノン、池上通信機、リーダー電子、日立国際電気、朋栄をはじめとする世界各国から634社・団体が出展した。

ソニーは、XDCAM「PXW―Z190／PXW―Z280」、スイッチャー「MVS―3000A」、4K OLEDモニター「PVM―X550」、IPライブプロダクションを4本柱にして展示とデモを実施した。



ソニーは、XDCAM「PXW-Z190」と「PXW-Z280」を新製品として売り込んでいた

「PXW―Z190／PXW―Z280」で、「業界初の4K 60フレーム／秒、視野角75・1度を実現する」と説明していた。発売予定と価格については「今年12月に発売予定で、価格はコントローラー込みで1万400㌦ぐらいになる見込み」という。もう1件は、360度ライブカメラを使ったデモで、会場内をぐるりと撮影して来場者に再生映像を見せていた。

★モバイル回線用カメラ

キヤノンは、5・9K 3CMOS HDTV HDRカメラ「HDK―98／CCU―980を使えば、4K制作も可能」と訴求していた。

同社のブースでは「HDK―73」も紹介され、4KよりフルHD HDR カメラを訴求する販売店との組み合わせで紹介していた。

池上通信機は、3G信機と新DRやWCGワークフローにも対応している」と説明していた。

日立国際電気のブースでは、4Kプロダクションカメラ「SK―UHD4000」に加えて、直径1・2㍍のKuバンド可搬型衛星通信アンテナが目に付いた。担当者によれば、「日立国際電気トルコ会社が製作・販売にかかわっている関係で展示している。このほかに、直径1・8㍍と1・5㍍の製品もそろえている」という。アジアや中東で、これから4Kコンテンツの衛星へのアップリンクが増えるとみているようであった。

朋栄は、12G―SDI 12G」などのラインアップをブースに飾ってデモを繰り広げていた。

★IPソリューション

前述した出展者以外で目立ったのは、ブラックマジックデザイン、グラスバレー、ARRI、REDデジタルシネマ、ハーモニック、V―Nova、テレストリームだ。

ブラックマジックデザインは、同社が誇る多種多彩な製品をブースに整然と並べ、特に「URSA BROADCAST」カメラの売り込みに力を入れていた。3月に発売したばかりというこのカメラは、B4マウントでウルトラHDにも対応し、価格は3495㌦とのことであった。

グラスバレーは、「LDX―86N」の4Kセンサーをコンパクト化して搭載したという「LDX―C86N」カメラをブース正面のステージで紹介していた。プロダクションスイッチャーに関しては、「K―Frame Korona V―Series」に脚光を浴びせ、IPソリューションを大々的にPRしていた。SMPTE2110規格が固まったことで売れ筋とみているようであった。

★シネマカメラ新製品

「Enlarge Your Vision（ビジョンを拡大しよう）」をキーワードに掲げたARRIは、6K 65㍉シネマカメラ「Alexa 65」の低価格普及版という4K 35㍉フルサイズセンサーを搭載した「Alexa LF」の展示がメインだ。

ブースの担当者は「ラージフォーマットに合わせて新しいLPLレンズマウントを採用した。HDRやWCGワークフローにも対応している」と説明していた。

REDデジタルシネマは、35・4㍉相当8K S35 CMOSセンサーを搭載した「DSMC2 HELIUM」カメラを出展して注目の的になった。担当者は「8129×4320フルフォーマット、最大60pのREDCODE RAWに対応している」と強調していた。

★OTTサービス実演

ハーモニックは、OTTサービス、IPワークフロー、SaaS（Software as a Service）ソリューションのデモを実施した。OTTサービスのデモでは、同社の「Eye Q」コンプレッションが、いかに高品質な映像再生に貢献できるかを熱心に説明していた。



パナソニックは、業界初という4K 60p PTZカメラ「AW-UE150」を出展して注目された

英国のV―Novaも、間もなく販売を開始するというコンプレッション技術「PERSEUS Plus」を訴求した。担当者は「6Mpsで4KムービーのストリーミングやVRコンテンツの配信を実現する」と豪語して来場者を驚かせた。スポーツイベントの場合は「10Mbpsで対応できる」としていた。

テレストリームは「フォックス・スポーツの依頼を受け、Vantage／Lightspeed Liveシステムと IBMのAsperaのFASPStreamを駆使して、ワールド・カップ・ロシア大会のストリーミングサービスを実施中」と実績を誇示していた。

Vantageは、同社のプロセッシングプラットフォームで、Lightspeed Liveは、ライブ・マルチスクリーン・エンコーディングとパッケージングを実現できる。

★4Kプロダクション

ソニーのブースに隣接する好立地を得たリーダー電子は、ZENシリーズのラスタライザー「LV7600」を目玉にして出展した。説明員によれば、「4K、12G―SDIとIPに対応する最新のハイブリッド製品」とのことであった。

★IPライブ制作をデモ

「BA2018」の会場には、日本のソニー、パナソニック、キヤノン、池上通信機、リーダー電子、日立国際電気、朋栄をはじめとする世界各国から634社・団体が出展した。

ソニーは、XDCAM「PXW―Z190／PXW―Z280」、スイッチャー「MVS―3000A」、4K OLEDモニター「PVM―X550」、IPライブプロダクションを4本柱にして展示とデモを実施した。

ソニーは、XDCAM「PXW-Z190」と「PXW-Z280」を新製品として売り込んでいた

「PXW―Z190／PXW―Z280」で、「業界初の4K 60フレーム／秒、視野角75・1度を実現する」と説明していた。発売予定と価格については「今年12月に発売予定で、価格はコントローラー込みで1万400㌦ぐらいになる見込み」という。もう1件は、360度ライブカメラを使ったデモで、会場内をぐるりと撮影して来場者に再生映像を見せていた。

★モバイル回線用カメラ

キヤノンは、5・9K 3CMOS HDTV HDRカメラ「HDK―98／CCU―980を使えば、4K制作も可能」と訴求していた。

同社のブースでは「HDK―73」も紹介され、4KよりフルHD HDR カメラを訴求する販売店との組み合わせで紹介していた。

池上通信機は、3G

日立国際電気のブースでは、4Kプロダクションカメラ「SK―UHD4000」に加えて、直径1・2㍍のKuバンド可搬型衛星通信アンテナが目に付いた。担当者によれば、「日立国際電気トルコ会社が製作・販売にかかわっている関係で展示している。このほかに、直径1・8㍍と1・5㍍の製品もそろえている」という。アジアや中東で、これから4Kコンテンツの衛星へのアップリンクが増えるとみているようであった。

朋栄は、12G―SDI 12G」などのラインアップをブースに飾ってデ

★IPソリューション

前述した出展者以外で目立ったのは、ブラックマジックデザイン、グラスバレー、ARRI、REDデジタルシネマ、ハーモニック、V―Nova、テレストリームだ。

ブラックマジックデザインは、同社が誇る多種多彩な製品をブースに整然と並べ、特に「URSA BROADCAST」カメラの売り込みに力を入れていた。3月に発売したばかりというこのカメラは、B4マウントでウルトラHDにも対応し、価格は3495㌦とのことであった。

グラスバレーは、「LDX―86N」の4Kセンサーをコンパクト化して搭載したという「LDX―C86N」カメラをブース正面のステージで紹介していた。プロダクションスイッチャーに関

セッサー「FA―960」、アップダウンクロスコンバーターモジュール「USF―106UDC―12G」、オーディオマルチプレクサー「USF―101MDX4―

フルフレームシネマカメラ「EOS―C700FF」と「EOS―C700FPL」を目玉にして出展した。もう1点注目を集めたのは、サイズが1・57×1・57×0・85㍍のミニカメラ「MM―100―W5」で、モバイル回線を使用するソリトンシステムズのスマートキャスター送

パナソニックは、業界初という4K 60p PTZカメラ「AW-UE150」を出展して注目された

戦術が如実に見られた。モニターの展示では、4K HDR 31型モニター「HQLM―3120W」が注目されていた。

★4Kプロダクション

ソニーのブースに隣接する好立地を得たリーダー電子は、ZENシリーズのラスタライザー「LV7600」を目玉にして出展した。説明員によれば、「4K、12G―SDIとIPに対応する最新のハイブリッド製品」とのことであった。

日立国際電気のブースでは、4Kプロダクションカメラ「SK―UHD4000」に加えて、直径1・2㍍のKuバンド可搬型衛星通信アンテナが目に付いた。担当者によれば、「日立国際電気トルコ会社が製作・販売にかかわっている関係で展示している。このほかに、直径1・8㍍と1・5㍍の製品もそろえている」という。アジアや中東で、これから4Kコンテンツの衛星へのアップリンクが増えるとみているようであった。

朋栄は、12G―SDI 12G」などのラインアップをブースに飾ってデモを繰り広げていた。

★IPソリューション

前述した出展者以外で目立ったのは、ブラックマジックデザイン、グラスバレー、ARRI、REDデジタルシネマ、ハーモニック、V―Nova、テレストリームだ。

ブラックマジックデザインは、同社が誇る多種多彩な製品をブースに整然と並べ、特に「URSA BROADCAST」カメラの売り込みに力を入れていた。3月に発売したばかりというこのカメラは、B4マウントでウルトラHDにも対応し、価格は3495㌦とのことであった。

グラスバレーは、「LDX―86N」の4Kセンサーをコンパクト化して搭載したという「LDX―C86N」カメラをブース正面のステージで紹介していた。プロダクションスイッチャーに関

パナソニックは、業界初という4K 60p PTZカメラ「AW-UE150」を出展して注目された

しては、「K―Frame Korona V―Series」に脚光を浴びせ、IPソリューションを大々的にPRしていた。SMPTE2110規格が固まったことで売れ筋とみているようであった。

★シネマカメラ新製品

「Enlarge Your Vision（ビジョンを拡大しよう）」をキーワードに掲げたARRIは、6K 65㍉シネマカメラ「Alexa 65」の低価格普及版という4K 35㍉フルサイズセンサーを搭載した「Alexa LF」の展示がメインだ。

ブースの担当者は「ラージフォーマットに合わせて新しいLPLレンズマウントを採用した。HDRやWCGワークフローにも対応している」と説明していた。

REDデジタルシネマは、35・4㍉相当8K S35 CMOSセンサーを搭載した「DSMC2 HELIUM」カメラを出展して注目の的になった。担当者は「8129×4320フルフォーマット、最大60pのREDCODE RAWに対応している」と強調していた。

★OTTサービス実演

ハーモニックは、OTTサービス、IPワークフロー、SaaS（Software as a Service）ソリューションのデモを実施した。OTTサービスのデモでは、同社の「Eye Q」コンプレッションが、いかに高品質な映像再生に貢献できるかを熱心に説明していた。

英国のV―Novaも、間もなく販売を開始するというコンプレッション技術「PERSEUS Plus」を訴求した。担当者は「6MpsでKムービーのストリーミングや4K 360／VRコンテンツの配信を実現する」と豪語して来場者を驚かせた。スポーツイベントの場合は「10Mbpsで対応できる」としていた。

テレストリームは「フォックス・スポーツの依頼を受け、Vantage／Lightspeed Liveシステムと IBMのAsperaのFASPStreamを駆使して、ワールド・カップ・ロシア大会のストリーミングサービスを実施中」と実績を誇示していた。

Vantageは、同社のプロセッシングプラットフォームで、Lightspeed Liveは、ライブ・マルチスクリーン・エンコーディングとパッケージングを実現できる。

ケーブルキャストのデータ放送サービス
ケーブルテレビ佐伯が導入
地域情報や緊急情報を提供

ケーブルテレビ佐伯（CTS／大分県佐伯市）は10日から、ジャパンケーブルキャスト（東京都千代田区）が提供するセンター配信ASP型データ放送サービス「JC－data」を利用したコミュニティチャンネル（コミch）でのデータ放送と、地域情報や災害時に役立つ各種緊急情報をスマートフォンなどで確認できるアプリ「JC－Smart」でのサービス提供を開始した。

データ放送では、台風発生時または津波警報発令時に、進路予想図や警戒エリアの地図画像をコミch本線上にオーバーレイで強制表示する。文字情報に加えて画像データで表示することで、緊急時の情報を正確に分かりやすく視聴者に伝えられる。

降水予想図や1時間降水雨量情報、河川水位情報などは、佐伯市をクローズアップした地図で表示している。また、台風情報は全国版と九州特化版の2種類の地図で示す。地域に特化した気象情報を表示することで、他チャンネルの気象情報との差異化を図る。

JC－Smartでのサービスでは、番組情報、メンテナンス障害情報、CTSサービスの紹介、CTSイベント情報、災害発生時の緊急防災放送などを提供している。

「東急でんき&ガス」サービスの提供開始
ケーブルテレビ品川

ケーブルテレビ品川（東京都品川区）は2日、「でんき&ガス」サービス「しながわ電気ぐっ」の先行申し込みの受け付けを開始した。また、テレビサービス、インターネットサービス、電話サービス、スマートサービスなどの各種対象サービスと電気をセットで利用することで、月額利用料金から最大350円割引く「しながわ電気ぐっと割」に加え、でんき＋ガスの合算料金から50円割引く「ガスもっと割」を導入した。

ケーブルテレビ品川は、東急パワーサプライと電気サービスの販売面などにおいて業務提携し、2016年4月から家庭で利用の電気を東急パワーサプライの電気サービスと、ケーブルテレビ品川のサービスとのセットによる割引プランを導入している。

今回、新たに都市ガスサービスの販売を決定したことで、これまでに展開している「東急でんき」に都市ガスを加えた「東急でんき&ガス」として提供する。

西日本豪雨
J:COMが被害地支援
VODサービスで募金

ジュピターテレコム（J:COM）は、7月の「西日本豪雨」により甚大な被害を受けた地域を支援するため、「募金オンデマンド」による募金活動を開始した。

「募金オンデマンド」は、同社のVODサービス「J:COMオンデマンド」の仕組みを活用したもので、J:COMのテレビサービス加入者が、リモコンの操作で簡単に募金に参加できるサービス。1分程度の映像を視聴すると、J:COMから寄付先団体に募金される仕組みになっている。

募金額は100円、500円、1000円、5000円、1万円の5つで受け付ける。

震災害義援金」についても、引き続き9月15日まで実施期間は、12月15日までの予定。

なお、「大阪府北部地から視聴の際に選択できる。また、募金の終了期日までに集まった金額と同額をJ:COMが加算し、日本赤十字社に渡す。

ネットワーク運用を簡素化
シスコシステムズ
CATV向けに新パッケージ

シスコシステムズ（以下シスコ）は3日、CATV事業者がコア ブロードバンド ルーティング機能をサポートし、ネットワーク運用を簡素化するための新たなアプローチ「Cisco Cloud-Native Broadband Router」を発表した。

これは、開発、導入、運用のための標準ツールを実装した一連のマイクロサービスで構成するコンテナ化されたCMTS（ケーブルモデムターミネーションシステム）機能を包含した、CCAP（コンバージド ケーブル アクセス プラットフォーム）サービスのフルソフトウエアパッケージ。

この利用により、クラウドやIPをベースとしたケーブルネットワークで効率的なリソースの活用と同時に、現在のハードウエアベースに比べて短時間での新サービスの開始が可能となる。

また、従来のハードウエア利用の際にみられる拡張性の問題を軽減し、スペース、電力、空調、オンサイトでの保守などの要件を最小限に抑えることができる。

主な特徴は次のとおり。

①クラウド環境構成：マルチクラウド アーキテクチャをサポートするために、開発段階から弾力性や回復性、柔軟性の高い複数のサービスを持ち合わせて提供できるよう設計

②コンテナ化したソフトウエア アーキテクチャ：オープンベースのモジュール型ソフトウエア搭載により、迅速かつ俊敏な機能開発と導入を実現。

③自動化とアナリティクス：リアルタイム監視、分析、修正機能により、ネットワーク オペレーションの変革に対応。

新4K8K衛星放送に対応
DXアンテナが発売
CS/BSラインブースター

DXアンテナは、「CS／BS ラインブースター C27S（B）」（オープン価格）を7月17日に発売する。

CS／BS ラインブースターは、テレビやレコーダーの増設などで弱くなったテレビ信号のレベルを補う製品。アンテナから分配器や、アンテナからテレビの間に取り付けることで使用できる。スカパー！プレミアムサービスの視聴や12月から本放送が開始される新4K8K衛星放送の周波数帯域（3224MHz）に対応する。

最大27㍍の高利得設計のため、アンテナからテレビまでの距離が長い場合でも、弱くなったテレビ信号のレベルを充分に補うことが可能。また、IPX4（防水・防塵の保護規格）に適合する防まつ形のため、屋内・屋外のどちらでも使用でき、取り付け場所を選ばない施工性に優れている。

新4K8K衛星放送の番組を視聴するためには、別途4K8K放送対応のアンテナやチューナーなどが必要になる。同社は製品の販売から受信システムの設計まで、トータルでサポートする。

4K対応テレビに接続
新型チューナーを発売
マスプロ電工

マスプロ電工は、新4K8K衛星放送における4K放送を、4K対応テレビで視聴するために必要な4Kチューナー「DT814」（オープン価格）を12月に発売する。

12月から新4K8K衛星放送が始まるが、以前から発売されている4K対応テレビでは、同放送受信用のチューナーが内蔵されていない。そのため別途外付けチューナーが必要となる。

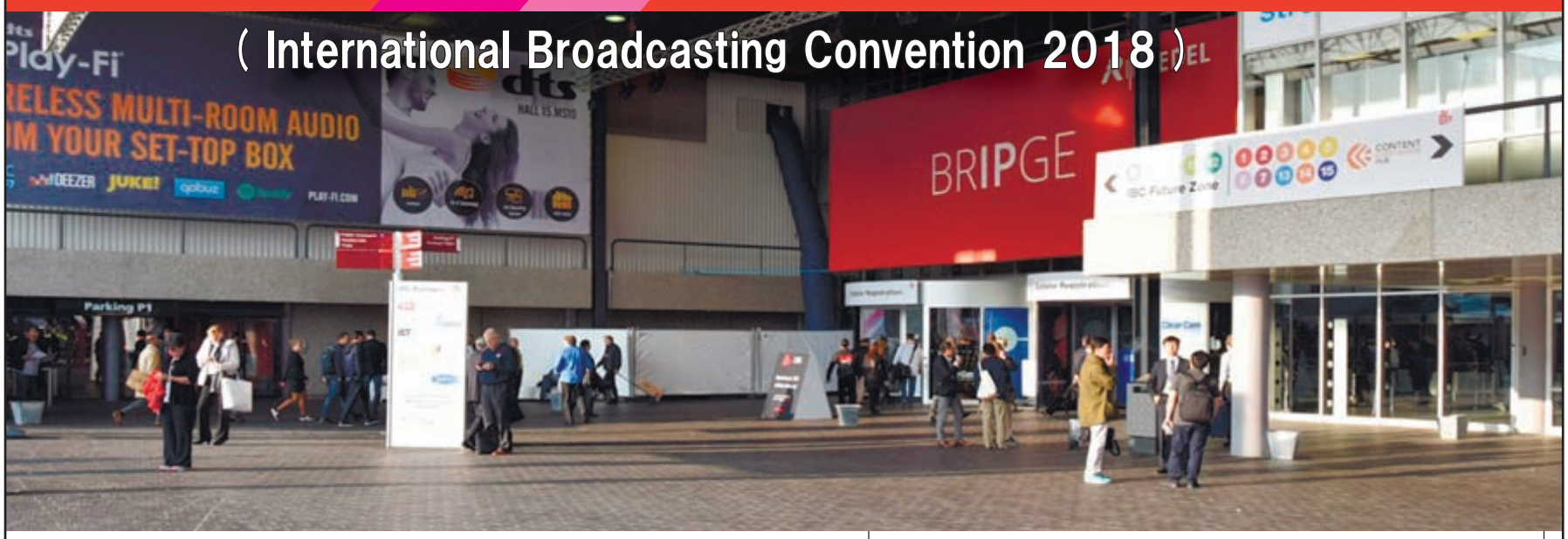
DT814は、既存の4K対応テレビに接続するだけで、手軽に新4K衛星放送が視聴可能。HLG（ハイブリッドログガンマ）方式のHDRに対応し、高精細でより現実に近い美しい映像を見ることができる

外形寸法は約34（高さ）×220（幅）×146（奥行き）ミリメートル。



IBC 2018視察ツアー

（ International Broadcasting Convention 2018 ）



IBC 2018 視察ツアーのご案内

欧州最大の放送・映像業界のイベント、IBC（International Broadcasting Convention）が 2018 年 9 月にアムステルダムで開催されます。
映像新聞社と JTB では最新動向を視察するツアーを企画します。
是非ご参加下さい！

IBC 2018 視察ツアー参加のメリット

- 到着日に事前説明会を開催 (見どころレクチャー)
- IBC 2018 現地最新情報満載の日本語速報レポートをツアー期間中に配布
- 映像新聞記者が話題の展示ブースをご案内
- IBC 2018 登録手続き代行 (入場料込み)

■ツアーご案内 URL www.it-navi.com

日次	月　日(曜)	地　名	現地時間	交通機関	スケジュール	食　事
1	2018 年 9 月 14 日 (金)	成田空港 東京（成田）発 アムステルダム着 アムステルダム	8:00 10:30 15:10 夕方	 KL862 混乗 バス	成田空港ご集合 空路、アムステルダムへ 空港発、ホテルへ ホテルチェックイン ※事前説明会実施	 機内 夕食：×
2	9 月 15 日 (土)	アムステルダム	終日	公共 交通	■IBC2018視察 〈Radisson Amsterdam Airport 泊〉	朝食：○ 昼食：× 夕食：×
3	9 月 16 日 (日)	アムステルダム	終日	公共 交通	■IBC2018視察 ※映像新聞記者によるブースツアー実施 〈Radisson Amsterdam Airport 泊〉	朝食：○ 昼食：× 夕食：×
4	9 月 17 日 (月)	アムステルダム	終日	公共 交通	■IBC2018視察 〈Radisson Amsterdam Airport 泊〉	朝食：○ 昼食：× 夕食：×
5	9 月 18 日 (火)	アムステルダム アムステルダム発	12:00 14:40	混乗 バス KL861	ホテル発、空港へ 空港着 空路、成田へ　<機中泊>	朝食：○ 昼食：× 夕食：×
6	9 月 19 日 (水)	東京 (成田) 着	8:40		到着後、解散	機内

※発着地及び交通機関は変更になることがあります。
■利用航空会社（エコノミークラス）: KL : KLM オランダ航空
■利用ホテル : オランダ／ Radisson Amsterdam Airport （ツイン 2 名 1 室利用）

●時間帯の目安

早朝	朝	午前	午後	夕刻	夜	深夜
04:00	06:00	08:00	12:00	16:00	18:00	23:00	04:00

IBC（International Broadcasting Convention）
- ■期　間　2018 年 9 月 14 日 (金) ～ 9 月 18 日 (火)
- ■開催地　アムステルダム・オランダ
- ■周　期　毎年
- ■会　場　RAI Amsterdam Convention Centre
- ■公式サイト https://www.ibc.org/

■名　称
IBC (国際放送機器展) 2018 視察ツアー

■旅行期間
2018 年 9 月 14 日（金）～ 9 月 19 日（水）【4 泊 6 日】

■訪問地
アムステルダム

■旅行代金
【基本コース】**445,000 円**（大人お一人様）
（大人お一人様あたり、ツイン 2 名 1 室・エコノミークラス利用）
※上記旅行代金の他に、国内空港施設使用料（2,090 円）、旅客保安サービス料（520 円）、海外空港諸税・燃油サーチャージ（概算 29,300 円）が別途必要になります。（2017 年 11 月 30 日現在）

■利用航空会社
KLM オランダ航空（KL）（エコノミークラス）

■利用ホテル
オランダ：Radisson Amsterdam Airport
（ツイン 2 名 1 室利用）

■募集人員
15 名様　（最少催行人員 10 名様）
* 定員に達し次第、締め切りさせていただきます。

■食事条件
朝食 4 回、昼食 0 回、夕食 0 回（機内食は除く）

■添乗員
同行いたしません。

申込締切日
2018 年 7 月 20 日（金）

企画協力　株式会社 映像新聞社
〒112-0006
東京都文京区小日向 1-24-8
エイゾービル
URL: http://www.eizoshimbun.com/

◆　お問い合わせ・資料請求先　◆
株式会社 JTB　新宿第二事業部
ＴＥＬ：03-5909-8091
ＦＡＸ：03-5909-8110
〒163-0426 東京都新宿区西新宿 2-2-1 新宿三井ビルディング 26 階
IBC 2018 視察ツアー係
担　当：前澤・井脇・佐伯
総合旅行業務取扱管理者：軽部 大紀
営業時間　月～金 9:30 ～ 17:30 (土、日、祭日休み）
※　詳しい旅行条件を記載した書面をお渡し致しますので、事前にご確認の上お申込下さい。
旅行企画　・　実施
株式会社 JTB
観光庁長官登録旅行業第 67 号
東京都品川区東品川 2-3-11
一般社団法人日本旅行業協会正会員
旅行業公正取引協議会会員

総合旅行業務取扱管理者とは、お客様の旅行を取扱う営業所での取引の責任者です。
この旅行の契約に関し、担当者からの説明にご不明な点がありましたら、ご遠慮なく上記の旅行業務取扱管理者にご質問ください。

ケーブルコンベンション2018／ケーブル技術ショー

日本ケーブルテレビ連盟、日本CATV技術協会、衛星放送協会の3団体は、CATV業界の総合コンベンション「ケーブルコンベンション2018」および、関連イベント「ケーブル技術ショー2018」を7月19、20日の2日間、東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催する。放送サービスやインターネット接続サービスなどを提供する「地域の総合情報通信メディア」として、発展を続けるCATVの魅力を訴求するとともに、業界の最新動向を探る場となる。

ケーブルコンベンション2018のテーマは、『Make the Next Stage～ケーブルテレビから、次世代を創り出そう～』。講演初日には、開会式（午前10時開始）に続き、「第30回ケーブルテレビ功労者表彰　贈賞式」「ケーブル・アワード2018　第11回　ベストプロモーション大賞　贈賞式」を開く。また午後6時から、業界関係者の情報・知見を交換・共有するための情報交換会（有料）を設けている。

【詳細】www.catv-conv.jp

関連イベント「ケーブル技術ショー2018」の開催テーマは「最先端ケーブル技術の未来創造～人と地域と社会を結ぶ、情報通信インフラの実現にむけて～」。出展各企業の新製品やソリューション技術などの展示、最先端技術のセミナーを実施する。

テーマ展示ゾーンでは、4K・8K放送サービスを設けている。

【詳細】www.catv-f.com

19、20日／東京国際フォーラムで開催

業界の最新動向を探る

4K・8K放送サービスに注目

関連技術、ケーブルネットワーク関連技術、IPデータキャスト技術を活用した防災・減災、地域の安心・安全を支えるソリューション、ケーブル伝送路の無電柱化への取り組みなどを解説。特に、12月1日に開始する新4K8K衛星放送用受信環境整備の進捗状況などについて紹介する。

また、主催者による米国CATVの技術動向、新4K8K衛星放送受信環境整備の取り組みに関するセミナーを開く。

開場時間は、20日が午前9時30分―午後6時、21日が9時30分―午後5時。



CATVの最新技術・サービスを訴求する（写真は昨年の展示会）

ケーブル技術ショー2018／出展者

アイテック阪急阪神／伊藤忠ケーブルシステム	THK
アイテム／ソースネクスト	DXアンテナ
アイベックステクノロジー	DTSインサイト
アストロデザイン	ティーブイエスネクスト
アビッドテクノロジー	Deviser Instruments
アンリツ	テクニカラー・パイオニア・ジャパン
伊藤忠ケーブルシステム	テクノハウス
イノコス	テクノマセマティカル
VIAVIソリューションズ／東京電機産業	東亜ソフトウェア
SCSK	東京シー・エム・シー
NECネッツエスアイ	東洋紡エンジニアリング
NTTアドバンステクノロジ	トラフィック・シム
FXC	日興通信
F5ネットワークスジャパン	日本アンテナ
エム・アールエフ	日本コントロールシステム
江守情報	日本ソフト開発
カーバチュア・ジャパン	日本通信機
関電工	日本デジタル配信
北村製作所	ニューメディア
共栄システム産業	ネクストキャディックス
共信コミュニケーションズ	ネットセーブ
クボテック	Harmonic Japan
クロスイメージング／気象サービス	パナソニック システムソリューションズ ジャパン
コペックジャパン	VeEX／メインテクノロジー
サテライトコミュニケーションズネットワーク	BBIX
サン電子	ビデオトロン／イメージニクス
ジャパンケーブルキャスト	ファーウェイ・ジャパン（華為技術日本）
ジャパンマテリアル	フジクラ
ジョリーグッド	富士通ネットワークソリューションズ
シンクレイヤ	プラットイーズ
住友電気工業	古河電気工業
ZTEジャパン	ブレーンズ・システム
ソニービジネスソリューション	朋栄
ソニーペイメントサービス	マスプロ電工
ソリッド	三菱電機
ソリトンシステムズ	ミハル通信
ダイコー通産	武蔵エスアイ
大電	MECC
データコントロルズ	MEDIAEDGE
データブロード	メディアキャスト
データブロード	リーダー電子

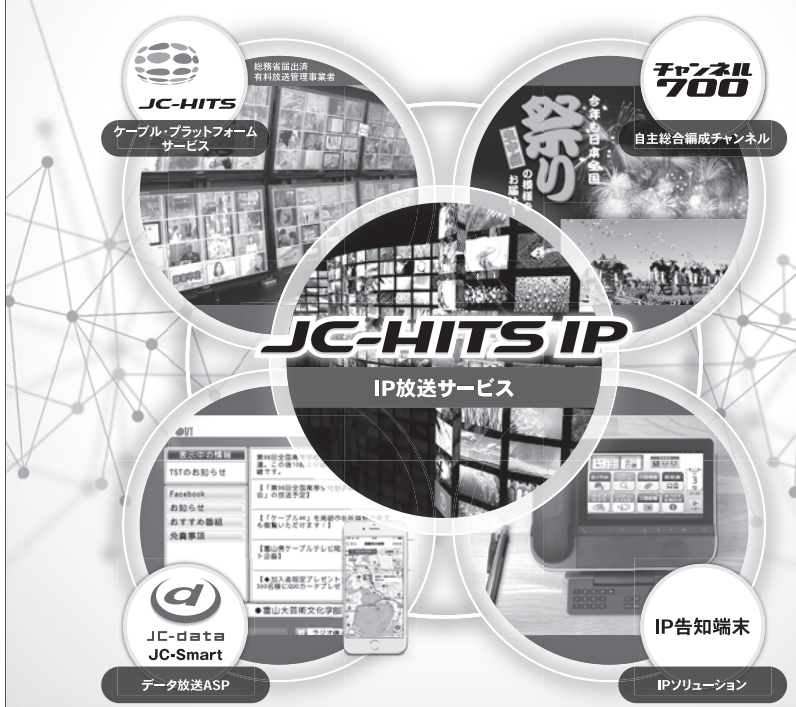
広告

CABLECAST

ジャパンケーブルキャスト は
ケーブル技術ショー2018に ブース出展いたします

日程　7月19日（木）9：30～18：00
　　7月20日（金）9：30～17：00
会場　東京国際フォーラム ホールE
（小間番号：A-09）

明日の笑顔のために。
～ ケーブルテレビにできることをすべての地域へ ～



ジャパンケーブルキャスト株式会社
東京都千代田区九段南一丁目6番17号　千代田会館8階
TEL 03-6910-2900（代）　FAX 03-3556-4232　Mail public@cablecast.co.jp
URL http://www.cablecast.co.jp　お問い合わせ先 営業本部 03-6910-2903

ケーブルテレビの
緊急情報と地域情報を
支援する「コミネット」

ケーブル技術ショー2018に出展します　ブース番号 C-14

展示テーマ：減災・防災の取り組み

ケーブルテレビが地域を守る「減災・防災」の取り組みに、
SCNの考える「情報の伝達方法」をご提案

マルチ画面ソリューション

複数のLIVEカメラの映像を集約し、目的別レイアウトで地域の「今」を視聴者へ



「災害」「交通情報」「天気」など様々なレイアウトを提案

地域情報・緊急情報 自動表示サービス コミネット

全国のCATV 120局 で採用

詳しくは　WEBまたはお問合せください

SCN Satellite Communications Network
特定会社 サテライトコミュニケーションズネットワーク
http://www.sc-net.ne.jp

【本　社】〒683-0801　鳥取県米子市新開2-1-7
0859-32-6103　0859-22-8160
info@sc-net.ne.jp

特集

ケーブルコンベンション2018 ケーブル技術ショー

幅広いニーズに対応可能な製品群

朋栄



HVS-1200向けコントロールパネル「HVS-429WOU」

朋栄は、CATV業界の幅広いニーズに対応可能な製品群を出展する。

主な展示製品は、最新の4K 1M／Eビデオスイッチャー「HVS-120O」、ビデオサーバー／テロップ送出機として利用できる「MBP-1000VS-12G」、HDR／広色域対応のマルチチャネルシグナルプロセッサー「FA-9600」、12G-SDI／IPに対応した朋栄エレテックス製信号発生器「ESG-4200」、L字テロップ制作も可能なキャラクタージェネレーター「EzV-300-4K」、字幕データ制作システム「NeON-SHV」など。

Pixellot社の自動スポーツ映像制作ソリューション「Pixellot Standard」も映像展示する。

重量を約350㌘にし、大幅に小型・軽量化した。その使い勝手の良さから、ドローン搭載のカメラと連携した空撮、ウェアラブルカメラと連携したライブ中継など、利用の場を着実に広げている。

手軽に必要な期間だけ利用したいというユーザー向けにレンタルサービスも展開。日本国内、海外で提供している同サービスには、送受信機材一式のほかに現地のモデム・モバイル回線3本、Zao-S本体と専用バッテリー、モデムを収納できる専用の肩掛け型キャリーバッグも含まれる。

同サービスの好評を受け、レンタル機を増設した。

ソリトンシステムズ

ソリトンシステムズは、H・265／HEVCハードウエアエンコーダー「Smart-telecaster Zao-S（スマートテレキャスター ザオー エス）」を主力に展示する。同製品は従来モデルの特徴である、モバイル回線を利用したライブ中継、品質が変動しやすいモバイル環境でも安定した映像伝送を実現する独自技術搭載、動画圧縮規格HEVC／H・265に対応した高画質映像といった機能はそのままに、本体の体積を従来比40％以下に削減。



Smart-telecaster Zao-S

テクニカラー・パイオニア・ジャパン

「高度BS再放送対応セットトップボックス」は、12月から開始される新4K8K衛星放送の再放送に対応。HDD内蔵／非内蔵モデルの2機種をそろえている。



高度BS再放送対応STB（HDD内蔵モデル）

「超高速ブロードバンドソリューション」は、CATV事業者が、加入者へギガビットアクセスを提供するために設計された革新的なソリューション。最新のDOCSIS3・1、D-ONU、802・11axデバイスを展示する。

「Android TVプラットフォーム」は、快適にOTTコンテンツが利用でき、これまでよりも短時間で市場導入可能なアンドロイド対応のテクニカラー製STB。

サテライトコミュニケーションズネットワーク

災害の巨大化、激甚化に伴い、CATVの地域緊急情報や災害情報への取り組みがますます重要になっている。ブースでは、2005年から「地域情報・緊急情報自動表示サービス コミネット」の開始以来、取り組んできた実績ある放送支援サービスを紹介、そして一歩進んだ「減災・防災」を提案する。

緊急情報やLアラート情報、道路交通情報の提供から放送システム、運用代行までまとめて提供することで、CATV局を支援する。コミネットでは、L字型で速報性の高い情報提供を実現でき、マルチ画面ソリューションでは、河川カメラや交通カメラをそのまま放送することで状況を的確に伝える。



防災チャンネル

日本デジタル配信

日本デジタル配信（JDS）は、業界を挙げて取り組んでいるケーブル・プラットフォーム構想に基づく各サービスの最新状況を紹介する。

映像配信プラットフォームでは、新4K8K衛星放送の限定受信システム「ACAS」対応の4K自主放送をはじめMPEG2高圧縮化、ケーブル4K、みるプラス、みるプラスTV、CableTeを紹介する。

コンテンツ流通プラットフォームでは、ケーブル4K、IDプラットフォームでは、ケーブルID、IdPクラウドサービスを紹介するほか、統合クラウドサービス、STBなどの共同購入スキームも紹介する。

また、イベントステージでは、ケーブルIDプラットフォームに関する自治体向けサービス事例や、IP配信のみるプラス／みるプラスTV事例の紹介も実施する。

昨年に続き、「みるプラスCMアワード2018」を開催。各賞の発表・表彰をする。

緊急情報自動表示サービスを訴求



ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー
Cable Tech Show 2018

2018年7月19日(木)～20日(金)
東京国際フォーラム ホールE
クロスイメージング／気象サービス共同出展 ブースNo.C-02

クロスイメージング株式会社
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-5-1 A-PLACE五反田駅前9F
TEL. 03-6417-9190(代表) FAX. 03-6417-9195
http://crossimaging.jp/

特集

ケーブルコンベンション2018 ケーブル技術ショー



「チャンネル700」

IPを活用した映像配信サービス

ジャパンケーブルキャスト

CATVサービスの高度化に向けた取り組み・ソリューションを提供するジャパンケーブルキャストの出展ブースでは、新4K8K衛星放送開始に向けた「ACAS」の取り組みや運用方法、IPを活用した映像配信サービス「JC-HITS IP」、データ放送サービス「JC-data」におけるハイブリッドキャストとAIスピーカーの連携、地域防災をコンセプトとした新サービス「テレビde防災」やJC-dataクラウドを活用した地域情報・防災情報の配信などができるIP告知端末など、〝IP〟〝IoT〟ソリューションを訴求する。

メインのディスプレーでは、CATV専用の無料・自主総合編成チャンネル「チャンネル700」のダイジェスト映像を放映。

共信コミュニケーションズ

共信コミュニケーションズは、AIを利用した動画文字解析コンテンツ管理システム「DaAIps」、本格的なノンリニアHDR制作「HDR編集システム」、簡単操作でスタジオ送出・収録が可能な「ワンマンスタジオ」、自治体連携防災情報放送「Lアラート」、「議会中継システム」などを展示。

「DaAIps」は入力から出力までコンテンツを管理、解析、アーカイブが可能。AIを利用した動画文字解析、自動タグ付け機能を備える。

「ワンマンスタジオ」は、簡易なタッチパネル画面により進行状況が一目で分かり、1人で簡単にスタジオ送出・収録ができる。


DaAIps

Harmonic Japan

チャンネルオリジネーションに対するクラウドネイティブなソリューションの需要が高まっており、これによってOTTサービス配信が簡略化されつつある。「VOS360」は、CATV局が独自かつ簡単にOTTサービスを開始できることを目的とした、SaaS（Software as a Service）型のクラウドサービス。展示では「VOS360ライブ配信」「VOS360クラウドプレイアウト」をデモする。

そのほか、仮想化CCAP製品「CableOS」も披露する予定。

4K HDR対応のカムコーダー

ソニー

ソニーは「HDR for CATV」をコンセプトに、4K HDR／HD SDRサイマル番組送出システムをはじめ、新発売の4K HDR対応の映像制作機器やIPを活用したソリューションなどを展示する。

4K HDR対応カムコーダーは、新商品のハンディカムコーダー「PXW-Z280」はじめ、4K／60p記録に加えてS-Log3・HLG対応のカムコーダーをそろえる。


PXW-Z280（マイクは別売）

4K HDR／HD番組自動送出システム「SWE V-X100」は、4K HDR／HDサイマル送出へのマイグレーションに対応し、4K・HD番組コンテンツ管理機能を標準搭載することで最新のファイルベース運用に適応する。

武蔵エスアイ

Simplylive社製のオールインワン・ライブプロダクションシステム「Vibox8」は、複数の映像音声入力の同時収録、ビデオミキシング・スイッチング、オーディオミキシング、ビデオキーヤー、ハイライト編集ほか、多数の機能を1台のビデオサーバーに集約したシステム。ライブ中継やスポーツスロー中継などのライブ映像制作を少人数で実現可能にする。


MVX-4200㊨とMDC-70T

PHABRIX社製のハイブリッド信号発生器・測定器「Qx 12G」は、1・5G-SDIから12G-SDI、4K解像度まで対応。オプションでHDRやIP信号の測定にも対応する。

自社製品では、4入力2出力の撮って出しスロー・ハイライト編集機能を備えたビデオディスクレコーダー「MVX-4200」と、同機をリモートコントロールできる「MDC-70T」を展示する。

ケーブルネットワークのスペシャリスト
SYNCLAYER
MAKING POTENTIAL A REALITY
シンクレイヤ株式会社
http://www.synclayer.co.jp/
本社 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-21-18
TEL（052）242-7871（代）　FAX（052）238-5655

ケーブル技術ショー Cable Tech Show 2018
7月19日(木)▶7月20日(金)
東京国際フォーラム ホールE　ブースナンバー:B-32
Soliton
世界最小・最軽量
モバイル回線を利用した、H.265モバイルエンコーダ
Smart-telecaster Zao-S

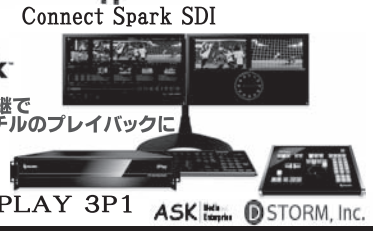
3キャリアLTE同梱スペシャルパック
Zao-S本体
~~89~~万円 ▶ 49万円 45% OFF
LTE3本セット(SIM・モデム)
スペシャルプライス
1万6500円/月
レンタルサービスもご用意してます
Zao-S ※国内の他に海外レンタルサービス有
好評につき レンタル機増設! 5万円 国内 3日間プラン
株式会社ソリトンシステムズ
Mobile Broadcast事業部
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-4-3
TEL: 03-5360-3860
MAIL: stc-sales@list.soliton.co.jp
Zao-S 検索
商品の詳細は弊社HPへ www.soliton.co.jp

NewTek NDI® 対応製品
NIXUS TELOP BOX NDI ▶ NewTek TriCaster TC1

BirdDog Studio

NDI|HX-PTZ1

Connect Spark HDMI
Connect Spark SDI
ライブ中継にオススメ!

モニターは別売
TalkShow VS-100
NewTek スポーツ中継でスロー・スチルのプレイバックに

3PLAY 3P1
ASK　DSTORM, Inc.
2018年8月31日 ご注文までの キャンペーン実施中!!
①TriCaster TC1バンドル製品に Connect Spark HDMI が1台付いてくる
②NDI PTZカメラ(NDI|HX-PTZ1)が 通常価格¥420,000(税別)→¥390,000(税別)

Ki Pro Ultra Plus

:pulse

UltraSync ONE

SyncBac PRO forGoPro HERO6
ASK
ADEX
■ SDI信号監視装置【VAD-C201/C161】
■ 同期信号 位相比較監視装置【BBD-200】
■ リアルタイムスーパー装置【DVS-10S】
NDI|HX-PTZ1、Connect Spark、BirdDog Studio 国内販売総代理店
株式会社ブレーンズ・システム
〒243-0402 神奈川県海老名市柏ヶ谷461－1
E-mail：sales1@brains-system.co.jp
TEL 046-244-3321
FAX 046-236-3853
ケーブル技術ショー Cable Tech Show 2018
小間番号:C-21
ぜひ、お立ち寄りください
brains

特集

ケーブルコンベンション2018 ケーブル技術ショー

中継素材の高速伝送システム提案

アストロデザイン



CX-5546

『中継素材を高速伝送IPass』は、IPoverTSの技術をベースに、遠隔地からファイルなどのデータを最大200Mbpsで伝送するシステム。ファイルデータをいったんTSに変換するので、局間回線やFPU、SNGなどのTSが通る回線であれば利用できる。素材伝送時間をさらに短縮可能。また戻り回線を利用することによって、パケットロス発生時にデータの再送要求ができる。

「データ放送検証システム CX-5546」は、新4K8K衛星放送」におけるデータ放送を事前検証するシステム。検証系の設備として、データ放送送出装置、マルチプレクサ、ISDB-S3変調器を組み合わせて実際の放送により近いシステムを構築でき、データ放送コンテンツの事前動作検証を実現する。

サン電子

サン電子は、新4K8K衛星放送に対応したRF受信システム、同放送対応光受信システム、さらには、監視カメラ向けPoE対応TLCモデム＋タイムサーバーなどを出品する。

新4K8K衛星放送RF受信システムは、宅内受信システムにおける伝送周波数3224MHzまでに対応する機器（ブースター、混合・分配器、テレビ端子など）で構成。今回、CS・BS定格出力（50波）117㌔の高出力タイプをラインアップ。大規模なアンテナ共同受信設備への対応が可能となった。

新4K8K衛星放送対応光受信システムは、RF伝送では、3224MHzでは伝送時のレベルの減衰が起こり、大規模施設での利用が厳しくなることから開発したもの。今回、最新型をラインアップする。

監視カメラ向けPoE対応TLCモデム＋タイムサーバーは、ネットワークカメラとTLCモデム（LAN-同軸コンバーター）のシステムに、簡易型タイムサーバーを組み合わせたもの。同サーバーは、地デジのワンセグの信号から時刻情報を取り出すもの。

住友電気工業

住友電気工業（住友電工）は、「デジタルヘッドエンド」「FTTH」「棟内・宅内」「営業・工事支援」の4つのゾーンで、新4K8K衛星放送対応のヘッドエンド装置やSTBなどの最新製品を出展。また、3・2GHz放送用光伝送システムや10G-EPONシステムなどの次世代ソリューションを提案する。

デジタルヘッドエンドでは、新製品の「高度BSトランスモジュレータ」を展示。3Uサブシャーシ筐体に最大12ユニット実装でき、1ユニットで1トランスポンダ（最大4K×3番組）分の信号を送出する。

FTTHでは、高度BSをパススルー伝送する3・2GHz放送用光伝送システムとして、高度BS/CS対応光送信機、高出力多ポート光増幅器、8＋1型冗長光スイッチなどを出展。

10G-EPONシステムは、センター設備の省電力・省スペース化に寄与し、遠隔地のFTTH化も実現できる「分散型FTTH（ROSD）」などを紹介する。

クロスイメージング

クロスイメージングは、CATV局のコミュニティチャンネルやお天気専門チャンネルなどの、気象・防災コンテンツを放送するためのデジタル放送送向けHD送出システム「MediaCommunity Station」を、コンテンツ配信元でもある気象サービスと共同で出展する。



天気予報の画面

地域に密着した気象・防災情報などの豊富なコンテンツを持ち、多様な画面を作画する機能を標準装備。外部映像との合成も可能。作画した画面、テロップ・広告を指定したスケジュールで切り替える機能により、無人運用を可能としている。24時間365日の保守体制や、自社開発のHD-SDIリアルタイム入出力ボードを用いることで、高速かつ安定したシステム稼働を実現し、既に30局以上の納入運用実績を誇る。

議会中継を直感的な簡単操作で



議会中継システム「Forum Assist」

ジャパンマテリアル

議会中継システム「ForumAssist」は放送クオリティーのテロップを実現し、タッチパネルによる直感的な簡単操作が可能。カメラコントロールやマイク操作、テロップ挿入、画面切り替えなどを1台で実現し、高品質フルハイビジョンカメラで撮影した映像を、CATVや議会の構内施設、インターネットに配信できる。ブースでは、教育向け録画配信ソリューション「Stream ing Assist」と連携して展示する。

マルチフォーマットディスクレコーダー「D-Stream LT」はAVC、ProRes、DNxHDなどに対応。VTRの置き換え、インジェスト・ノンリニアで出力したXMLの読み込みなど、多様な場面での活用ができる。

「Visual CG」は、リアルタイム2Dキャラクタージェネレーターで、放送の現場に最適化したシステム。

12G-SDI 対応 1M/E ビデオスイッチャー HVS-1200

小型で12G-SDI 10入力に対応





MXF 字幕ラッパー ICCW-100 / MXF 字幕トランスコーダー TRS-55

ファイルベースでの字幕制作をサポート

自動スポーツプロダクションシステム ピクセロット スタンダード

AIでスポーツ中継



ケーブルコンベンション関連イベント ケーブル技術ショー Cable Tech Show 2018　ブース No. C-06

FOR-A World of Possibilities FOR-A

特集

ケーブルコンベンション2018 ケーブル技術ショー

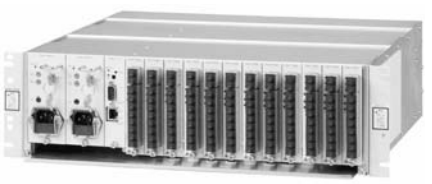
シンクレイヤ

シンクレイヤは、ケーブルネットワークに対応する多様なソリューションを提案する。

4K・8K放送の伝送を考慮した独自のFTTHシステム「over10GR-PONプラス4K/8K」は、光伝送路の冗長化が可能なFTTHシステムであるR-PON に、10Gbpsの高速伝送を実現する10G-EPONおよびXG（S）-PONを対応させ、かつ4K・8K放送の伝送などを考慮したシステム。

センター系機器は、光伝送路の冗長化に対応する光モニター・光切り替え器をはじめ、3U光サブラック「SFHS-7300」に収容する各種光ユニットを出展。端末系機器は、BS左旋帯域（2681MHz）に対応した光端末器（参考出展）などを披露する。

なお、4K/8K対応807R（04 OC）、CS左旋帯域（3224MHz）に対応した光端末器（参考出展）などを披露する。


3U光サブラック「SFHS-7300」

ブレーンズ・システム

ブレーンズ・システムは、NDI関連製品として米国NewTek社「PTZ-1カメラ」「Connect Spark」、豪州BirdDog社「BirdDog Studio」の国内総代理店として販売を開始した。

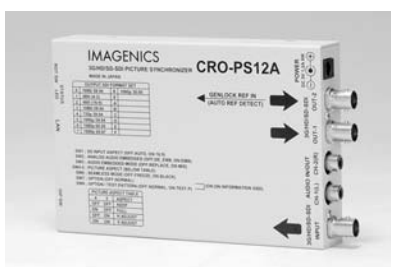
NewTek社が提供するNDIでは、既存のネットワーク環境を維持したままビデオ・オーディオ・メタデータの相互通信を高品質・低遅延・フレーム精度にてリアルタイムエンコード送受信が可能になり、今後NDI製品の需要にも期待が高まる。


PTZ-1カメラ

ブースでは、取り扱いNDI関連製品をはじめ、「TriCasterTC1」「TELOP BOX」とのNDI連携を実演デモする。ほかに「3PLAY 3P1」「TalkShow」「KiPro UltraoU」やTimeCodeSystems社製品、SDI信号監視装置。同期信号位相比較監視装置「BBD-200」、リアルタイムスーパー装置を展示する。

イメージニクス

イメージニクスは、3G/HD/SD-SDI信号向けスキャンコンバーター「CRO-PS12A」を出展する。SDI入出力間での解像度、垂直周波数の変換のみならず、拡大・縮小などの画角調整機能や音声の重畳・分離機能を備える。また同社独自技術により、2分配出力の一方をスイッチャブルでリファレンス端子として使用が可能で、出力信号を基準同期信号にロックできる。



CRO-PS12A

同様にゲンロック機能を持ったHDMI↓SDI用スキャンコンバーター「CRO-H2SC」や、SDI↓HDMI用スキャンコンバーター「CRO-SHC5」など多数の機材を展示。

ミハル通信

ミハル通信は「Ready and Waiting 4K・8K 新4K8K衛星放送の準備はお任せください」をテーマに、次世代デジタルヘッドエンド装置「MGSRシリーズ」と、次世代ブロードバンドシステムを展示する。


MGSR

「MGSRシリーズ」は、昨年のケーブル技術ショーで発表、今年度から市場に投入しているが、既に多くの事業者に導入、発注を受けている。RF、IPの入力冗長、また複数の受信点からの相互バックアップ、さらには機器本体の予備機切り替えといった機能がある。

ヘッドエンド装置の客観的監視ができるCATV監視装置の高度BS対応版とFTTH監視装置も展示する。さらに国内すべての放送信号を測定、新4K8K衛星放送のBER/MER測定も可能な「RFアナライザー」もデモする。

次世代ブロードバンドシステムでは、新4K8K衛星放送のシステムには欠かせない3・2GHzに対応した機器をそろえる。

リーダー電子

新4K8K衛星放送対応（3224MHz）オプションは、LF990およびLF52/LF51のBS/CS放送測定周波数範囲を3300MHzに拡張し、BS/110度CS左旋対応RF信号発生器「LG33」は、BS/110度CS左旋の周波数範囲をカバー、キャリア信号を3波混合して出力のため、接続および測定が容易なローコスト、小型RF信号発生器。

ISDB-S3レセプションモニター「LF6710」、リアルタイム・スペクトラムアナライザー「RSA5000シリーズ」、スペクトラムアナライザー「DSA875」など、4K・8K対応製品を出展する。


LF990

各種スキャンコンバーターを展示

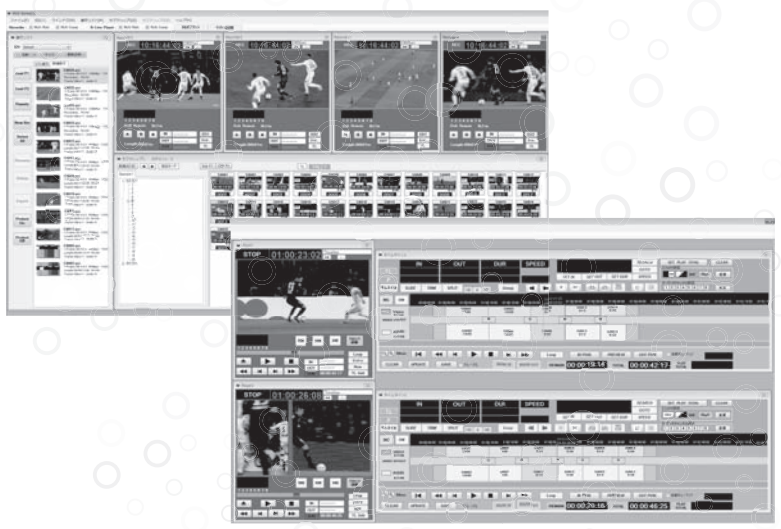
MVX-4200

4 In・2 Out ビデオサーバー

MVX ビデオサーバーシリーズの新しいラインアップとして MVX-4200 新発売いたしました。

入力数を 2 入力から 4 入力へと増やし、最近のマルチカメラ化に対応。

素早い撮って出し機能や、ノンリニアライクなハイライト編集、番組制作でのランダムアクセス送出、タリー連動送出などの従来機能は継承しています。


MDC-70T　MVX-4200

武蔵エスアイ株式会社
〒161-0033　東京都新宿区下落合 3-21-1 NK フジビル 3F
TEL：03-5996-7455　FAX：03-5982-4784
http://www.musashi-si.co.jp

AI によるコンテンツ管理システム。


DaAlps
AI-Contents Management System

「DaAlps」は、使い勝手を重視。
映像業界を知り尽くした弊社ならではの機能と、先進の「AI」解析技術を融合したオリジナルコンテツ管理システムです。

詳細はこちらにてご案内いたします!!

ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー Cable Tech Show 2018
7/19木▶7/20金
東京国際フォーラム　ホールE
Booth No. C-16

共信コミュニケーションズ株式会社 Kyoshin communications
東京都品川区北品川5-9-11 大崎MTビル3F・4F
TEL：03-3445-2070　Mail：info_mk@kycom.co.jp
kycom.co.jp

次世代 DISPLAY 最新動向149

大型映像装置向けLED素子
著しい中国系メーカーの台頭

1ミリピッチ台のシェアで圧倒
過去に日亜化学が独占状態も

大型LEDディスプレーは、いまや中国系メーカーが世界的に圧倒的なシェアを持つ。その大型映像用の主要デバイスであるLED素子の製造では、かつては日本の日亜化学が独壇場であったが、同社の主要な特許は数年前に切れており、この分野でも中国系メーカーなどの台頭が著しい。

（杉山平和・ディスプレー評論家）

1993年、日亜化学工業（徳島県阿南市／以下、日亜化学）が、これまでの業界の常識では考えられなかった1デカという明るい青色LED素子を開発したニュースは、大型映像業界を驚かせた。

それまで屋外用のフルカラー大型映像装置というと、特殊なCRT（三菱電機のオーロラビジョンなどで採用／三菱の場合は伊勢電子工業〈現・ノリタケ伊勢電子〉製）、あるいは特殊な放電管（松下通信工業＝現・パナソニックのアストロビジョンなどで採用／松下の場合は松下電子工業〈現・パナソニック〉製）のどちらかを使ったものが大半だった。

LEDの場合、明るい青色がなかったためにRG（赤・緑）タイプと呼ばれるセピアカラーのような大型映像しか、屋外映像設置としては実現していなかった。当時の業界団体であった日本電子機械工業会の資料にも「明るい青色LEDは20世紀中には実現不可能」と記されていた。それが20世紀中に実現したのだから業界は騒然とした。

この日亜化学の開発には、後に青色LEDの開発でノーベル物理学賞を受賞することになる、日亜化学社員だった中村修二氏（現・米カリフォルニア大学教授）の研究成果が大きく貢献する結果になった。

●青色LEDの出現

今でこそLEDは照明用として市場を席巻し、液晶テレビや携帯電話のバックライト、さらには車載用機器や信号機など多様な用途で利用されているが、青色LEDの出現によって最初に市場に火がついたのが屋外用の大型映像装置だった。

フルカラーLEDを使った大型映像装置の開発で、貢献度が大きい会社が赤見電機（兵庫県尼崎市）である。赤見電機の赤見正文社長は「青色LEDが開発されたと聞き、すぐに日亜化学のある阿南市に飛んだ」と当時を振り返る。RGタイプによるセピアカラー系の屋外型LEDに階調を付け大型映像装置として、既に名古屋駅前や新宿区役所（当時）に設置していた赤見電機にとって、青色LEDにより悲願だったフルカラー屋外型LED映像装置が実現できた。

赤見電機は1994年末に世界初の車載型屋外フルカラーLED装置「らいざうるす」を、ビス・メディア・ネットワーク（現・ビスメディア）の協力を得て市場に投入している。さらに95年3月には、これも世界初となる本格的な屋外型大型映像装置「スーパーライザ渋谷」を東京・渋谷駅前に設置した。

その赤見電機はこれまで徹底して、日亜化学製のLED素子を利用した〝メイドインジャパン〟の製品にこだわってきた。しかし、ついに今年から、日本製が主力であるとしつつも一部の市場向けに中国製LEDディスプレーを供給していくということにならざるを得なくなった。それだけ中国製品の影響力は、世界的に大きい。

●激化する主導権争い

大型映像用LED素子という観点でLEDメーカーを絞ると、まずは日亜化学が挙げられる。1993年以降、しばらくは日亜化学の独占状態が続いた。そして次に名乗りを上げたのが、同じく日本メーカーの豊田合成であった。

豊田合成は、前出の中村修氏とともにノーベル賞を受賞した、名古屋大学特別教授の赤崎勇氏および天野浩氏の技術の流れをくんで青色LEDを開発、大型映像市場に参入した。当時、松下通信工業や松下電器（ともに現・パナソニック）と共同で日亜化学製のLEDに対抗。2005年の愛知万博で利用されたLED大型映像の大半はパナソニック製で、豊田合成のLEDが使用された。

当時は、日亜化学製か豊田合成製かという対抗軸が生まれ、中村氏と赤崎氏の代理戦争とも呼ばれた。現在、豊田合成はLED事業を継続しているものの、大型映像用のLED事業からは、ほぼ撤退している。

中村氏が日亜化学を退社して米国に移籍後に手を組んだ会社が米国のクリー社である。クリー社製のLEDは現在でも大型映像用として一定の市場を確保している。ドイツのオスラム社も大型映像用のLEDでは高いシェアがある。日本でも大手電機メーカーがオスラム製のLEDを採用しており、世界的には日亜化学に匹敵するシェアをもつ。

中国メーカーで成長が著しいのがネイションスター社だ。中でも1ミリピッチ台の超高精細LED素子では圧倒的なシェアを誇る。現在市場に導入されている1ミリピッチ台のLEDの大半がネイションスター社製と考えてもいいくらいである。

日亜化学は、まだ1ミリピッチ台のLEDに参入しておらず、オスラムも最近製品を発売したばかりで市場に本格展開するのはこれからである。1ミリピッチ台のLEDを生産するのは、台湾のエバーライト社などがあるが、現状ではネイションスター社の寡占状態となっている。

ほかに中国メーカーではマルチカラー社などもLED市場に参入しており一定の市場を確保している。台湾ではハーバーテック社やオプトテック社なども参入している。日本ではシチズン電子がフルカラーLED大型映像の黎明期に屋内型LED素子で一部の市場に参入していたが、現在では大型映像向けの生産は取りやめている。

かつては日亜化学の独壇場であった大型映像用のLEDであるが、ここで主力としたネイションスター社以外にも、多くの中国メーカーが大型映像用のLEDを生産しているとされており、その実態は不明確な点も多い。

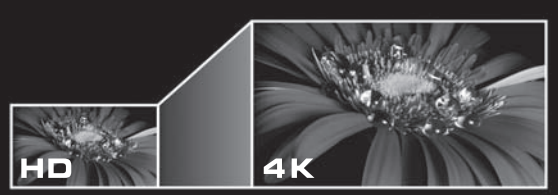
この市場で差異化していくには信頼と技術ということに行きつくだろうが、誰がこの市場を制するかは未知数ではある。



赤見電機が1997年にJR小倉駅前に設置したフルカラーLED屋外ビジョン「グラーンライザ北九州」（日亜化学製LED）は20年以上たった現在でも当時のシステムが稼働している

EXA INTERNATIONAL
4K変換サービス
いよいよ始まるBS4K放送に向けて、過去のHD映像を4K高画質化いたします。

■ 4K高画質アップコンバート / フレームレートコンバート
お客様がお持ちのHD映像をリアルタイムに4Kへ高画質変換いたします。昔の映像をUltraHDコーデック化することで、お客様にとって大切なコンテンツが現代の臨場感で再びよみがえります。



50P ⇌ 60P
50i ⇌ 60i

■ HDR⇌SDR 相互変換
HDRからSDR、SDRからHDR、またHDRからHDRへのリアルタイム変換のほか、BT.2020とBT.709へのリアルタイム色域相互変換も可能となりました。過去素材の変換はもちろん、番組やスポーツ収録などRAWまたはLogで撮影された映像も高画質でHDR化を行います。広がったダイナミックレンジにより、ハイライト部の白飛びを再現でき、ディテールを表現する事が可能となります。

■ 次世代4K配信用ファイル変換
4KHDR(HLG/PQ)素材からのHEVC/H.265/HDR(HLG/PQ)/SDRファイルへのトランスコードをいたします。

お気軽にご相談ください!

株式会社エクサインターナショナル　www.exa-int.co.jp
〒107-0052　東京都港区赤坂2丁目16番9号　TEL：03-5575-3911　FAX：03-5575-3910



4K時代の総合映像ポストプロダクション
togen
株式会社 東京現像所
www.tokyolab.co.jp

押見修造の人気コミックの映画化が『志乃ちゃんは自分の名前が言えない』（以下『志乃ちゃん』）／湯浅弘章監督、脚本・足立紳）である。綿菓子のようなとらえどころのない、青春恋愛ものが氾濫する昨今、マンガ原作らしからぬ、歯応えがある。言葉の語頭がうまく出ない女子高生、志乃の自身の闘いを描く、硬派な作品である。（中川洋吉・映画評論家）

「志乃ちゃんは自分の名前が言えない」

コンプレックスに悩む高校生の青春

物語を締めるラストの発言

困難を抱えつつも乗り越える姿



『志乃ちゃんは自分の名前が言えない』（志乃㊧と加代）

©押見修造／太田出版　©2017「志乃ちゃんは自分の名前が言えない」製作委員会（以下同じ）

この『志乃ちゃん』には元ネタがある。原作者押見修造自身の「吃音（きつおん）症」である。別に身体障害的な病気ではない。吃音とは、言葉が流ちょうに出てこず、滑らかに話せないことである。彼自身、母音からの発音が苦手で、例えば「ありがとう」の「あ」に困難を感じる。

主人公志乃も同じ設定としている。悩み多き青春の中の1つの出来事としての「吃音」を取り上げ、「作中、意図的に〈吃音〉という語は避けた」と彼は述べている。この症状のおかげで、押見自身、相手の気持ちにすごく敏感になり、人の表情やしぐさから感情を読み取る能力が発達するという副産物を得たと語っている。

◆厄介な点

言葉の滑りが悪いことは、本人にとり厄介な問題となる。つまり、コミュニケーション不足を招き、1人孤立する危険性がある。会話の中で母音が滑らかに出ないと、周囲は面倒がり、ハナシを聞かないことが起こり得る。そして、自分だけが浮いた存在と思い込み、自身を攻め、周囲を拒絶する場合がある。

これは病気ではないが、気持ちの重荷となり、これを『志乃ちゃん』はいかに克服するかが、作品の見どころとなる。

◆新学期の朝

目覚まし時計がいつものように鳴る。今日の始まりだ。特別な日、高校の新学期である。

ベッドから眠い眼（まなこ）をこすりながら、主人公志乃（南沙良）は起き上がる。新しい制服を着て鏡に向かい、何かしゃべり出す。新クラスでの自己紹介の練習だ。ここから志乃の苦難が始まる。

教室では、各人が自己紹介をする。彼女の番が来て、何かを言おうとしても言葉にならない。しゃべろうとするたびに詰まり、自己紹介で「大島志乃です」が出てこない。周囲は奇異なまなざしで「変わった子」とばかりに眺め、次いで嘲笑する。最悪の新学期の始まりだ。

◆加代との最初の出会い

誰にも相手にされず、下ばかり見て、顔も上げられない志乃、恥ずかしさと屈辱感で気持ちが張り裂けそうになる。

下校の際、自転車置き場で加代（蒔田彩珠）にぶつかるが、謝ろうにも言葉が出ない。八方塞がり状態で、ストレスがどんどんたまる。その加代に翌日謝りに行くが、彼女もちょっと突っ張り気味な少女、孤立し、ぶっきら棒だが、2人はまず筆談で「一緒に帰ろう」と志乃が提案する。

◆仲直りの2人

加代は志乃の歌のうまさに驚き、2人でユニットを作ることを強引に彼女に納得させる。実際、志乃は『あの素晴らしい愛をもう一度』（1971年）と『翼をください』（70年）を見事に歌いこなす。

2人は手始めに、橋の上でリハーサルを始める。ジーパンにギターのボーイッシュな加代と、ワンピースで長髪の志乃によるユニット「しのかよ」お披露目。照れ屋の加代は志乃の歌声に聞き惚れる。

もちろん、2人以外に中学時代イジメに遭い、今はひょうきんを装う菊地を絡ませるあたり、苦心の結果であろう。女の子同士の友情にイジメ問題を絡ませる狙いは良いが、果たして有効かは疑わしい。

その後、3人ユニットが固まり、文化祭の公演に向けての準備となる。お調子者の菊地は、仲間に参加する嬉しさで、タンバリン片手のタコ踊りまがいの当世風の振りで、1人で踊りまくる。普通なら、文化祭の3人組の演奏で、めでたし、めでたしとなるはずだが、現実は大違い。公演に向けた練習で、志乃がまたしても、言語障害の発作を見せ始める。



2人に菊地㊧が加わる

大勢の聴衆を前にした演奏で極度の緊張感に縛られ、自分は何の価値もない人間と思い込み、仲間とのコミュニケーションを自らぶち壊す。ちょっとした神経の高ぶりを、あまり深く考えずに、もっと気楽に考えたらと思うが、この繰り返しではダレてしまう。もう少し、脚本の刈り込みと締め上げをせねば、この単調な流れは断ち切れない。それには、文化祭前の志乃のしつこさに根負けし、渋々弾き語りを1曲披露するが、これがひどい音痴。つい志乃は笑ってしまうが、後が大変。カンカンの加代は、ギターを抱えつつも乗り越える姿に参加する嬉しさで、タンバリン片手のタコ踊りまがいの当世風の振りで、1人で踊りまくる。普通なら、文化祭の3人組の演奏で、めでたし、めでたしとなるはずだが、現実は大違い。公演に向けた練習で、志乃がまたしても、言語障害の発作を見せ始める。



歌う志乃㊧とギターを弾く加代

◆1本のギター

何も話すことのない志乃は、1本のギターに目を付け、加代に1曲せがむ。照れ屋の加代は志乃の誕生である。

若い人が知り合い、ユニットを組むとは。彼らの行動がこんなに早いものかと、年配者から見れば不思議な気がする。こが若さの特権かもしれない。また、2人の屋外リハーサル場面は、沼津市の海を背景とし、絵柄としても申し分ない。

◆ワンパターンな筋展開

いろいろと策をこらし、若い女の子の友情、それも、志乃の言語障害を通しての物語進行。繰り返しが多く、脚本にもうひと工夫ほしいところだ。

プログラムは進行、会場には出番を待つ加代。いよいよ彼女の番が来て、オリジナル曲「魔法」を、ギターを抱えてのソロ。彼女の音痴は相変わらずでも、構わず加代流で飛ばす。彼女の堂々たる音痴ぶり、最初は笑いをかみ殺していた聴衆も、次第に耳を傾け始める。

そこへ志乃が現われ、必死に語り掛ける。彼女は「わっ、わっ、私は自分の名前が言えない!!」、そして、目に涙を浮かべ堰（せき）を切ったように「わ、わたしの名前は、お、お、お…大島志乃」と、まるで呪縛から解き放されたように声を上げる。志乃の魂の絶叫である。

「コワイ、コワイ、だから逃げ回る自分。ちゃんと話せない自分が恥ずかしい、それが全部自分であり、今の私の状態」と不自由な言葉で精一杯の吐露。ここに志乃の、自分1人でも強く生きて見せる思いがこもっている。

このラストの志乃の発言こそ物語を締め、作り手の言わんとすることと直接結びついている。人は誰でも困難を抱え生きるものであり、また、乗り越える力を持っていると、見る者を励ましているようだ。

ラストに来て、「俺が言いたいのはコレダ」と作り手は力を込めて、背中を押す。破綻も多いが、言うべきことは伝える、芯（しん）のある作品だ。

〈文中敬称略〉

▣『志乃ちゃんは自分の名前が言えない』は、7月14日から新宿武蔵野館ほか全国順次公開

映像新聞無料メールマガジン
Vizcom
映像新聞がお届けするメールマガジン「Vizcom」は、ビジネスに役立つ情報をいち早く提供していきます。
配信登録は www.eizoshimbun.com

東映デジタルラボ×東映デジタルセンター



東映ラボ・テック株式会社
-TOEI LABO TECH-
本　　社　〒182-0022 東京都調布市国領町8-9-1　03(3430)3311
銀座営業所　〒104-0061 東京都中央区銀座3-14-1(銀座三丁目ビル6F) 03(5148)5600
東映デジタルラボ(株)　〒178-8666 東京都練馬区東大泉 2-34-5
TEL:03-3867-5009(代表) FAX:03-3867-5147

NAB SHOW®
Where Content Comes to Life

www.nabshow.com



NAB SHOW NEW YORK
Formerly Content & Communications World (CCW)

10月16日（火）～21日（日）4泊6日

NAB Show NY 視察ツアー参加者募集

NAB Show NY ツアー日程表

日付	都市名	時間	交通機関	スケジュール	食事
《1》10月16日（火）	東京（成田）発 ------日付変更線------ ニューヨーク着	17:00 16:45	UA078 専用車	✈ 空路、ニューヨークへ ----------日付変更線---------- ニューヨーク到着 🚌 到着後、専用車にてホテルへ 【ニューヨーク 泊】	朝:－ 昼:－ 夕:×
《2》10月17日（水）	ニューヨーク滞在	終日	徒歩	☕ ホテルにてご朝食 ＊ *NAB SHOW NEW YORK* ＊お客様ご自身で会場へ移動 【ニューヨーク 泊】	朝:○ 昼:× 夕:×
《3》10月18日（木）	ニューヨーク滞在	終日	徒歩	☕ ホテルにてご朝食 ＊ *NAB SHOW NEW YORK* ＊お客様ご自身で会場に移動 【ニューヨーク 泊】	朝:○ 昼:× 夕:×
《4》10月19日（金）	ニューヨーク滞在	終日	専用車（8時間）	☕ ホテルにてご朝食 ＊ *NYC 放送関連企業視察*（※お客様手配） ～通訳が同行します～ 【ニューヨーク 泊】	朝:○ 昼:× 夕:×
《5》10月20日（土）	ニューヨーク発 ------日付変更線------	11:00	専用車 UA079	☕ ホテルにてご朝食 🚌 専用車にて空港へ ✈ 空路、帰国途へ… ----------日付変更線---------- 【機中 泊】	朝:○ 昼:× 夕:×
《6》10月21日（日）	東京（成田）着	13:55		空港到着 通関後、解散 ＊＊お疲れ様でした＊＊	

旅行実施　株式会社 エイチ・アイ・エス 団体営業グループ 第四事業支店(海外視察旅行セクション)　☎03-5205-1840　担当：三上

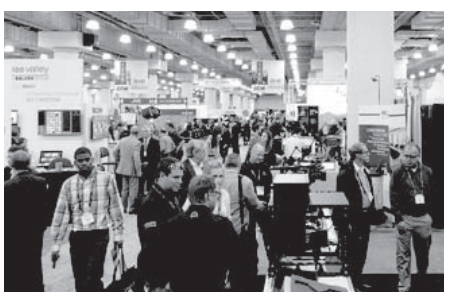
・本年度より NAB Show NY 視察ツアーを開始
・ツアー価格 396,910 円 /（2 名 1 室）
　1 名 1 室の場合、96,000 円の追加料金
　（航空会社や現地事情により変動する場合あり）
・最小遂行人数 10 名（参加者多数の場合、会場内専用サロンの設置）
・空港ホテル間、専用車にて送り迎え（日本語ガイド付）
・滞在ホテル [The New Yorker A Wyndham Hotel] はマンハッタン中心部（8 番街）、展示会場（ジェビッツコンベンションセンター）まで徒歩 10 分。毎朝食付（ホテル内レストラン）
・展示会場内ブース見学ツアー（同時通訳随行）
・CBS 等放送局 2 カ所ツアー（同時通訳随行）
・申込締切：8 月第 1 週（以降は要相談）

NAB Show NY は、首都ワシントン D.C. からも近い世界金融の中心地ニューヨークで 2015 年より開催。展示会場はハドソン川沿いの絶景地点。
ニュース、メディア配信、今後発展するインターネット放送など、リアルタイム性とセキュリティー関連の最新製品の展示やセミナーを開催。
NAB Show ラスベガスでは展示されない製品も多数。

www.nabshowny.com

New York

2018 年 10 月 17 日 -18 日　Javits Convention Center



出展社数：300 社以上 (2017 年 10 月開催時)
入場者数：14,000 人以上 (2017 年 10 月開催時)



www.nabshow.com

Las Vegas

2019 年 4 月 6 日 -11 日
Las Vegas Convention Center



出展社数：1,800 社以上 (2018 年 4 月開催時)
入場者数：103,000 人以上 (2018 年 4 月開催時)

参加・出展問い合わせ：NAB 日本代表事務所
nabshow@eizoshimbun.com
Tel.03-3942-2381　Fax.03-3942-2581

ビジネスマッチングツアー
VIPO　中国・北京で実施
知的財産関連企業と交流

映像産業振興機構（VIPO）は、経済産業省「コンテンツ関連ビジネスマッチング事業」の一環として、8月7―10日の日程で「日中IP（知的財産）ビジネスマッチングツアー@北京」を実施する。

同ビジネスマッチングツアーは、中国・北京市の北京マンガアニメゲーム産業協会の協力のもと、中国でビジネス展開するための現地企業との交流や、中国コンテンツ産業の最新動向について学ぶことができる。現地で開催される「アニメ北京」開幕式にも出席する。

参加費は無料。ただし、渡航宿泊費は参加者の負担となる（原則として参加者自身で航空券・ホテルを手配）。現地での移動車・通訳はVIPOで準備する。申し込みの締切日は7月20日（18時まで）。

◆開催概要

【訪問企業（予定）】▽快看＝中国最大のマンガプラットフォーム（www.kuaikanmanhua.com）▽若森数字＝アニメ制作会社（www.rocen.com.cn）▽掌趣＝モバイルゲーム開発の会社（www.ourpalm.com）▽360游戏＝巨大IT企業「奇虎360」グループのゲーム会社（game.360.cn）

【日程（予定）】▽8月7日＝午後：企業訪問1社／夜：歓迎レセプション（日本大使館）▽8日＝午前：国家対外文化貿易基地見学／午後：企業訪問2社▽9日＝午前：企業訪問1社（ビジネスマッチングの相手先は「アニメ北京」開幕式および フォーラム出席／午後：中国コンテンツ企業とのビジネスマッチング▽10日＝午前：企業訪問1社（ビジネスマッチングの相手先は「アニメ北京」参加企業を予定）

【申し込み・詳細】www.vipo.or.jp/news/16885

【問い合わせ・応募先】グリーンイメージ国際環境映像祭実行委員会（東京都目黒区祐天寺2―1―4―8 ウエストフォトビルB1 環境・文化創造機構内）、Eメール＝entry@green-image.jp

24日に特別セミナー
テレビ局の決算を分析
次世代メディア研究所

次世代メディア研究所は、特別セミナー「プロからみたテレビ局の決算書～放送局の常識は会計学の非常識!?～」を7月24日に開く。

2017年度の民放キー5局単体の決算を見ると、増収増益はテレビ東京のみ。他4局は微妙な実績となった。次世代メディア研究所では、特に全局で広告収入が減収となった点に注目。今後、地上波テレビの広告収入は伸び悩むと目されているという。

セミナーでは、各局の決算を分析しつつ、一般の会社経営と比べどこに問題があるのかを抽出して、適正化がどう可能なのかを考える。さらにコンテンツ関連の投資や新規ビジネスの可能性について、会計学の視点から提案し、広告収入以外で増収増益をどう図るのかを議論する。

講師（予定）は、慶応義塾大学ビジネス・スクールの太田康広教授、モデレーターは、次世代メディア研究所の鈴木祐司代表。

【日時】7月24日／16時―18時30分

【会場】データニュース社セミナールーム（東京都渋谷区南平台町16―25 養命酒ビル）

【受講料】法人会員契約の企業は契約人数まで無料、一般参加は2万円

【申し込み・詳細】jisedai-media.main.jp/home/reception

第6回国際環境映像祭
作品の募集を開始
19年2月に上映会

第6回「グリーンイメージ国際環境映像祭」実行委員会は作品の募集を開始した。テーマは「環境」で、2014年以降に制作された作品が対象。制作者の在住する国・地域、上映時間は問わない。応募は無料、締切日は9月30日。

同映像祭は、環境をキーワードに、アニメーションからドキュメンタリーまで優れた映像作品を上映する、年に1度のフェスティバル。第6回は2019年2月に実施する予定。応募作品の中からグリーンイメージ大賞（1点／賞金10万円）、グリーンイメージ賞（記念品）を決定する。

第5回には、53の国と地域から214作品が応募。その中から選出されたグリーンイメージ賞17作品を、18年3月23―25日に東京都千代田区の日比谷図書文化館コンベンションホールで上映した。

【申し込み・詳細】green-image.jp/filmfestival/entry/6th

社名変更

◇朋栄エレテックス　朋栄の100％子会社で、放送・映像システムの開発・製造・販売を手掛ける朋栄YEMエレテックス（東京都渋谷区）は、6月20日付で社名を「株式会社 朋栄エレテックス」に変更した。

移転

◇USEN-NEXT HOLDINGS（7月9日付）セントラルスクエア9―13階／ウェブサイト＝usen-next.co.jp

人事

◇スカパーJSATホールディングス（6月22日付）▽代表取締役副社長 米倉英一（新任）

◇テレビ朝日クリエイト（6月25日付）▽取締役 山田惣一（新任）

◇TSSプロダクション（6月28日付）▽取締役 檜山欣成（新任）

［新住所］東京都品川区上大崎3―1―1 目黒

全国の入札情報を毎日メールでお届け！
だからビジネスチャンスを見逃さない！

映像入札王のご案内

入札王
入札情報提供サービス

映像入札王とは？
中央省庁、独立行政法人、地方自治体等の入札情報を提供するサービスです。
映像制作・関連機器、ホームページ制作、広告制作、情報処理、調査等あらゆる分野の最新の入札情報を毎日ご提供します。

映像新聞読者は 5% 引き　こちらのサイトからご利用ください
http://www.eizoshimbun.com
10日間 お試し 無料トライアル実施中　トライアル期間で入札王の効果を実感してください

TERADEK

Teradek製品正規販売協力特約店
三友株式会社 / 共信コミュニケーションズ株式会社
株式会社システムファイブ / 西華デジタルイメージ株式会社
株式会社クレッセント / 株式会社EVC（敬称略/順不同、2018年5月14日現在）

Teradek認定ディストリビュータ
株式会社キャムキャスト7 keep on streaming

Teradek認定 正規品修理センター
Play with us.
株式会社メディアトラバース

BOLTを始めとするTeradek製品は
正規販売協力特約店と
私どもキャムキャスト7がサポートしています

www.camcast.jp/products/

POMFORT fn LiveGrade PRO
ポムフォート ライブグレードプロ
ライブグレードで
オンセット・カラーグレーディング
LiveGradeは、HD-SDIやUHD/4Kライブ映像フィードへのカラーコレクション操作をリアルタイムに反映。LUT/ルックを適用した映像の確認や、ルックの作成、プレビュー、ルックの比較検討が撮影現場で行えます。

POMFORT fn Silverstack
ポムフォート・シルバースタック
オールインワン撮影素材管理ツール「シルバースタック」
大切な素材管理とカラーの
ワークフローをシンプルに。
撮影素材のプレビュー、整理・分類、バックアップ、編集工程の下準備をこなせる撮影メディア管理ツール。
各種RAWフォーマットに対応するほか、新たにカラーの管理や、クリップごとのカラーデータとのマッチング機能を追加しました。

えいぞうこ
EIZOKO
NAS機能つきアーカイブアプライアンス
シナジー「EIZOKO」(えいぞうこ)は、LTOテープへのアーカイブとアーカイブ後のデータの活用を快適にする機能を備えた映像制作者に最適なアーカイブシステムです。
Archiware P5をストレージOSに統合し、あらゆるメディアデータをLTOで保管・管理。 映像制作において使用される、台本や香盤表のワードやPDFから予算管理のエクセルデータまで全てをLTOへアーカイブします。

映像用途に特化した国産NASストレージ
MIDO NAS

CineRAID
Advanced Storage for Digital Cinema

Macで放送局システムを構築するブロードキャストスイート
tools ON air
ツールズオンエア

プロジェクト共有・管理 編集コラボレーションシステム
STRAWBERRY
by FLAVOURSYS
フレイバーシス・ストロベリー

Synergy 株式会社シナジー　www.synergykk.com　TEL : 03-3654-3883

SONY

世界初[*1]4K 3CMOSハンディ登場。

狙った被写体を逃さない顔検出オートフォーカス搭載。



PXW-Z280

新開発 4K 60p対応 1/2インチ ExmorR
3CMOSイメージセンサーにより感度F12[*2]を実現。

新発売

希望小売価格 770,000円＋税



PXW-Z190

新開発 4K 60p対応 1/3インチ ExmorR
3CMOSイメージセンサー、光学25倍ズーム搭載。

2018年9月発売予定

希望小売価格 495,000円＋税

4K HDR　Exmor R　3CMOS　XAVC　MPEG HD422　XDCAM

*1:ソニー調べ。2018年4月9日時点
*2:4K：High SensitivityモードON　HD：High SensitivityモードOFF

ソニーのプロフェッショナル/業務用映像制作機材の情報は　sony.jp/pro-cc/　広告掲載商品に関するお問い合わせは 業務用商品購入相談窓口[フリーダイヤル] 0120-580-730　受付時間 9:00～18:00（土･日･祝日･弊社休業日は除く）

◎ソニーおよびSONYはソニー株式会社の商標です ◎XDCAMのロゴは、ソニー株式会社の商標または登録商標です ◎本文中にTM、®マークは明記していません ◎商品を安全に使うため使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください ◎希望小売価格には配送・工事・接続調整などの費用は含まれていません ◎掲載商品の仕様や外観は改良のため予告なく変更することがあります
※ 本ページに記載の「4K」は3840×2160画素となります。また、フレームレートの60pは59.94pを省略して記載しています。

Sony Business Solutions Coporation
ソニービジネスソリューション株式会社